本書の構成

本書をお読みになる前に

安全にお使いいただくための注意事項や、本書の表記について説明しています。必ずお読みください。

第 1 章　各部名称

各部の名称と働きについて説明しています。

第 2 章　ハードウェア

本パソコンを使用するうえでの基本操作や、本パソコンに取り付けられている（取り付け可能な）周辺機器の基本的な取り扱い方について説明しています。

第 3 章　セキュリティ

本パソコンは、他人による不正使用を防止するため、セキュリティボタン、スマートカードまたは指紋センサーなどのセキュリティ機能が使用できます。なお、使用できるセキュリティ機能は、お使いの機種によって異なります。

第 4 章　BIOS

BIOS セットアップというプログラムについて説明しています。また、本パソコンのデータを守るためにパスワードを設定する方法についても説明しています。なお、BIOS セットアップの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

第 5 章　技術情報

本パソコンの仕様などを記載しています。

目次

第 3 章　セキュリティ

第 4 章　BIOS

第 5 章　技術情報

本書をお読みになる前に

安全にお使いいただくために

このマニュアルには、本パソコンを安全に正しくお使いいただくための重要な情報が記載されています。
本パソコンをお使いになる前に、このマニュアルを熟読してください。特に、添付の『安全上のご注意』をよくお読みになり、理解されたうえで本パソコンをお使いください。
また、『安全上のご注意』およびマニュアルは、本パソコンの使用中にいつでもご覧になれるよう大切に保管してください。

保証書について

・ 保証書は、必ず必要事項を記入し、内容をよくお読みください。その後、大切に保管してください。
・ 修理を依頼される場合には、必ず保証書をご用意ください。
・ 保証期間内に、正常な使用状態で故障した場合は、無料で修理いたします。
・ 保証期間内でも、保証書の提示がない場合や、天災あるいは無理な使用による故障の場合などには、有料での修理となります。ご注意ください（詳しくは、保証書をご覧ください）。
・ 修理後は、パソコンの内容が修理前とは異なり、ご購入時の状態や、何も入っていない状態になっている場合があります。大切なデータは、フロッピーディスクなどに複写して、保管しておいてください。
・ 本製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）の保有期間は、製造終了後 5 年です。

使用許諾契約書

富士通株式会社（以下弊社といいます）では、本パソコンにインストール、もしくは添付されているソフトウェア（以下本ソフトウェアといいます）をご使用いただく権利をお客様に対して許諾するにあたり、下記「ソフトウェアの使用条件」にご同意いただくことを使用の条件とさせていただいております。
なお、お客様が本ソフトウェアのご使用を開始された時点で、本契約にご同意いただいたものといたしますので、本ソフトウェアをご使用いただく前に必ず下記「ソフトウェアの使用条件」をお読みいただきますようお願い申し上げます。ただし、本ソフトウェアのうちの一部ソフトウェアに別途の「使用条件」もしくは「使用許諾契約書」等が、添付されている場合は、本契約に優先して適用されますので、ご注意ください。

ソフトウェアの使用条件

1. 本ソフトウェアの使用および著作権
お客様は、本ソフトウェアを、日本国内において本パソコンでのみ使用できます。なお、お客様は本パソコンのご購入により、本ソフトウェアの使用権のみを得るものであり、本ソフトウェアの著作権は引き続き弊社または開発元である第三者に帰属するものとします。
2. バックアップ
お客様は、本ソフトウェアにつきまして、1 部の予備用（バックアップ）媒体を作成することができます。
3. 本ソフトウェアの別ソフトウェアへの組み込み
本ソフトウェアが、別のソフトウェアに組み込んで使用されることを予定した製品である場合には、お客様はマニュアル等記載の要領に従って、本ソフトウェアの全部または一部を別のソフトウェアに組み込んで使用することができます。
4. 複製
(1) 本ソフトウェアの複製は、上記「2.」および「3.」の場合に限定されるものとします。
本ソフトウェアが組み込まれた別のソフトウェアについては、マニュアル等で弊社が複製を許諾していない限り、予備用（バックアップ）媒体以外には複製は行わないでください。
ただし、本ソフトウェアに複製防止処理がほどこしてある場合には、複製できません。
(2) 前号によりお客様が本ソフトウェアを複製する場合、本ソフトウェアに付されている著作権表示を、変更、削除、隠蔽等しないでください。
5. 第三者への譲渡
お客様が本ソフトウェア（本パソコンに添付されている媒体、マニュアルならびに予備用バックアップ媒体を含みます）を第三者へ譲渡する場合には、本ソフトウェアがインストールされたパソコンとともに本ソフトウェアのすべてを譲渡することとします。なお、お客様は、本パソコンに添付されている媒体を本パソコンとは別に第三者へ譲渡することはできません。
6. 改造等
お客様は、本ソフトウェアを改造したり、あるいは、逆コンパイル、逆アセンブルをともなうリバースエンジニアリングを行うことはできません。
7. 保証の範囲
(1) 弊社は、本ソフトウェアとマニュアル等との不一致がある場合、本パソコンをご購入いただいた日から 90 日以内に限り、お申し出をいただければ当該不一致の修正に関して弊社が必要と判断した情報を提供いたします。
また、本ソフトウェアの記録媒体等に物理的な欠陥（破損等）等がある場合、本パソコンをご購入いただいた日から1ヶ月以内に限り、不良品と良品との交換に応じるものとします。
(2) 弊社は、前号に基づき負担する責任以外の、本ソフトウェアの使用または使用不能から生じるいかなる損害（逸失利益、事業の中断、事業情報の喪失その他の金銭的損害を含みますが、これに限られないものとします）に関しても、一切責任を負いません。たとえ、弊社がそのような損害の可能性について知らされていた場合も同様とします。
(3) 本ソフトウェアに第三者が開発したソフトウェアが含まれている場合においても、第三者が開発したソフトウェアに関する保証は、弊社が行う上記（1）の範囲に限られ、開発元である第三者は本ソフトウェアに関する一切の保証を行いません。
8. ハイセイフティ
本ソフトウェアは、一般事務用、パーソナル用、家庭用などの一般的用途を想定したものであり、ハイセイフティ用途での使用を想定して設計・製造されたものではありません。お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本ソフトウェアを使用しないものとします。ハイセイフティ用途とは、下記の例のような、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途をいいます。

記

原子力核制御、航空機飛行制御、航空交通管制、大量輸送運行制御、生命維持、兵器発射制御など

富士通株式会社

マイクロソフト製品サービスパック

Microsoft® Windows® をご利用のお客様がより安定したシステムを運用していく上で、マイクロソフト社はサービスパックを提供しております（http://www.microsoft.com/japan/）。
お客様は、最新のサービスパックをご利用いただくことにより、その時点でマイクロソフト社が提供する Microsoft® Windows® にて最も安定したシステムを構築できます。
したがいまして、当社としては、最新のサービスパックをご利用いただくことを基本的には推奨いたします。
ただし、お客様の環境によっては、サービスパック適用により予期せぬ不具合が発生する場合もありますので、ご利用前にはサービスパックの Readme.txt を必ずご確認ください。
また、万一、インストールに失敗したことを考慮し、システムのバックアップを取ることを推奨いたします。

データのバックアップについて

本装置に記録されたデータ（基本ソフト、アプリケーションソフトも含む）の保全については、お客様ご自身でバックアップなどの必要な対策を行ってください。また、修理を依頼される場合も、データの保全については保証されませんので、事前にお客様ご自身でバックアップなどの必要な対策を行ってください。
データが失われた場合でも、保証書の記載事項以外は、弊社ではいかなる理由においても、それに伴う損害やデータの保全・修復などの責任を一切負いかねますのでご了承ください。

添付の CD-ROM などは大切に保管してください

これらのディスクは、本パソコンに入っているソフトウェアをご購入時と同じ状態に戻すときに必要です。

液晶ディスプレイの特性について

以下は、液晶ディスプレイの特性です。これらは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。
- TFT 液晶ディスプレイは高度な技術を駆使し、一画面上に 235 万個以上（解像度 1024 × 768 の場合）の画素（ドット）より作られております。このため、画面上の一部に点灯しないドットや、常時点灯するドットが存在する場合がありますが、これらは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。
- 本パソコンで使用している液晶ディスプレイは、製造工程により、各製品で色合いが異なる場合があります。また、温度変化などで多少の色むらが発生する場合があります。

本製品のハイセイフティ用途での使用について

本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業用などの一般的用途を想定したものであり、ハイセイフティ用途での使用を想定して設計・製造されたものではありません。
お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本製品を使用しないでください。
ハイセイフティ用途とは、以下の例のような、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途をいいます。
- 原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療用機器、兵器システムにおけるミサイル発射制御など

注 意

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス A 情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるように要求されることがあります。

本製品には、有寿命部品（液晶ディスプレイ、ハードディスクなど）が含まれており、長時間連続で使用した場合、早期の部品交換が必要になります。

本装置の使用環境は、温度 5 ～ 35 ℃、湿度 20 ～ 80%（RH）です。また、保存環境は、温度 -10 ～ 60 ℃、湿度 20 ～ 80%（RH）です。

このパソコンは、国内での使用を前提に作られています。海外での使用につきましては、お客様の責任で行っていただくようお願いいたします。

本装置は、社団法人電子情報技術産業協会が定める高調波ガイドラインの適用対象外です。

本装置は、社団法人電子情報技術産業協会のパソコン業界基準（PC-11-1988）に適合しております。

当社は、国際エネルギースタープログラムの参加事業者として本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。
ただし、プレインストールされた基本ソフトによっては、本製品の省エネルギー機能が使用できないため、基準を満たさない場合もあります。

保守修理サービスのご案内

弊社では、保守修理サービスとして、以下の「契約サービス」「スポット保守サービス」を用意しております。
お客様のご希望、ご利用状況に合わせたサービスをお選びの上、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」またはご購入元にお申し込みください。

■ 契約サービス

お客様と契約に基づき、機器管理を行います。
保守サービス料金は月額の定期保守料をお客様に負担していただきます。
料金は定額ですので、お客様の予算管理も容易です。

- 定期保守サービス
  トラブルを未然に防止するとともに、機器の機能維持を行うため、定期的に予防点検、整備調整作業を行います。万一の障害発生時には保守員がお客様に伺い、保守修理作業を実施いたします。
  業務にご利用の場合などで、機器の使用頻度の高いお客様に最適なサービスです。
- 定額訪問修理サービス
  万一のトラブルの際に、保守員がお客様に伺い、修理作業を実施いたします。
- 定額点検サービス
  トラブルを未然に防止するための定期点検のみを実施する契約サービスです。
  点検時の部品の交換、障害発生時の保守作業については別途有償とさせていただきます。

■ スポット保守サービス

必要に応じてその都度利用していただく保守サービスです。
保守サービス料金は、サービス実施の都度、お客様に負担していただきます。

- スポット訪問修理サービス
  お客様のご依頼により、保守員が修理にお伺いします。
  修理料金はその都度ご清算いただきます。なお、保証書の無料修理規定による保証期間中の修理費用は無償ですが、訪問に必要な費用は別途有償となります。
- スポット持込修理サービス
  「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」またはご購入元にお持ち込みいただき、修理完了後に、お客様にお引き取りいただきます。経済的な費用で修理できます。
- スポット引取修理サービス
  お客様のご依頼により、弊社指定の運送業者がお客様をご訪問させていただき、機器を回収いたします。修理完了後に、お客様までご返送させていただくサービスです。
  なお、保証書の無料修理規定による保証期間中の修理費用は無償ですが、往復の運送に必要な費用は別途有償となります。
- スポット点検サービス
  お客様のご依頼により、保守員がお客様を訪問させていただき、機器を整備・点検します。
  機器の長期間の使用や移設作業後に点検を行いたい場合などにご利用いただけます。なお、点検時に部品交換などが必要と判断された場合は別途有償とさせていただきます。

  ※アフターサービスなどについて、ご質問などがございましたら、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」またはご購入元へお問い合わせください。

本書の表記

■ 警告表示

本書では、いろいろな絵表示を使っています。これは装置を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を、未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解のうえ、お読みください。

⚠ 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。
⚠ 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使っています。

	△で示した記号は、警告・注意を促す内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容が示されています。
	⃠で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な禁止内容が示されています。
	●で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な指示内容が示されています。

■ 本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
重要	お使いになる際の注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
POINT	操作に関連することを記述しています。必要に応じてお読みください。
→	参照ページや参照マニュアルを示しています。

■ キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「＋」でつないで表記しています。

例：【Ctrl】+【F3】キー、【Shift】+【↑】キーなど

■ コマンド入力（キー入力）

本文中では、コマンド入力を次のように表記しています。

```
diskcopy  a:  a:
            ↑   ↑
```

- ↑の箇所のように文字間隔を空けて表記している部分は、【Space】キーを 1 回押してください。
  また、上記のようなコマンド入力を英小文字で表記していますが、英大文字で入力してもかまいません。
- CD-ROM ドライブのドライブ名を、［CD-ROM ドライブ］で表記しています。入力の際は、お使いの環境に合わせて、ドライブ名を入力してください。
  ［CD-ROMドライブ］:¥setup.exe

■ 画面例およびイラストについて

表記されている画面およびイラストは一例です。お使いの機種によって、実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なることがあります。また、このマニュアルに表記されているイラストは説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略していることがあります。

■ 連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつなげて記述しています。

例：「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」をポイントし、「アクセサリ」をクリックする操作
↓
「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」の順にクリックします。

■ BIOS セットアップの表記

本文中の BIOS セットアップの設定手順において、各メニューやサブメニューまたは項目を、「－」（ハイフン）でつなげて記述する場合があります。

例：「メイン」メニューの「フロッピーディスク A」の項目を「使用しない」に設定します。
↓
「メイン」－「フロッピーディスク A」：使用しない

■ フロッピーディスクドライブ、CD-ROM ドライブ

フロッピーディスクドライブ、CD-ROM ドライブが搭載されていないモデルの場合、各ドライブが必要な操作では、別売の周辺機器を用意してください。使用できる周辺機器については、『システム構成図』をご覧ください。
周辺機器の使用方法については、周辺機器のマニュアルをご覧ください。

■ お問い合わせ先／ URL

本文中に記載されているお問い合わせ先や WWW の URL は 2002 年 5 月現在のものです。変更されている場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」へお問い合わせください（→『取扱説明書』参照）。

■ カスタムメイドオプション

本文中の説明は、標準仕様に基づいて記載されている場合があります。
そのため、お使いのパソコンがカスタムメイドオプションを取り付けている場合、本文中の説明と一部記載が異なる場合があります。

■ 製品の呼び方

本書に記載されている製品名称を、次のように略して表記します。
なお、本書ではお使いの OS 以外の情報もありますが、ご了承ください。

<table>
<tr><th>製品名称</th><th colspan="3">本文中の表記</th></tr>
<tr><td>Microsoft® Windows® XP Professional</td><td>Windows XP Professional</td><td rowspan="2">Windows XP</td><td rowspan="7">Windows ※</td></tr>
<tr><td>Microsoft® Windows® XP Home Edition</td><td>Windows XP Home Edition</td></tr>
<tr><td>Microsoft® Windows® 2000 Professional</td><td colspan="2">Windows 2000</td></tr>
<tr><td>Microsoft® Windows NT® Workstation Operating System Version 4.0</td><td colspan="2">Windows NT</td></tr>
<tr><td>Microsoft® Windows® Millennium Edition</td><td colspan="2">Windows Me</td></tr>
<tr><td>Microsoft® Windows® 98 operating system SECOND EDITION</td><td colspan="2">Windows 98</td></tr>
<tr><td>Microsoft® MS-DOS® operating system</td><td colspan="3">MS-DOS</td></tr>
<tr><td>Norton AntiVirus™ 2002</td><td colspan="3">AntiVirus</td></tr>
<tr><td>VERITAS RecordNow DX 4.0</td><td colspan="3">RecordNow</td></tr>
<tr><td>Adobe® Acrobat® Reader 5.0</td><td colspan="3">Acrobat Reader</td></tr>
<tr><td>Intel® SpeedStep™ Technology Applet</td><td colspan="3">Intel SpeedStep</td></tr>
<tr><td>Intellisync® for Notebooks</td><td colspan="3">Intellisync</td></tr>
<tr><td>Phoenix® Portables Suite</td><td colspan="3">Portables Suite</td></tr>
</table>

※：Windows XP/2000/NT/Me/98 のように併記する場合があります。

■ 機種名表記

本文中の機種名を、次のように略して表記します。
なお、本書ではお使いの機種以外の情報もありますが、ご了承ください。

<table>
<tr><th>機種名</th><th colspan="2">本文中の表記</th></tr>
<tr><td>FMV-7000NA2</td><td>〔NA〕</td><td>本パソコン
パソコン本体</td></tr>
<tr><td>FMV-6120NU2
FMV-610NU2</td><td>〔NU〕</td><td rowspan="6">その他のパソコン</td></tr>
<tr><td>FMV-612NU2/E</td><td>〔NU E〕</td></tr>
<tr><td>FMV-7160MR2</td><td>〔MR〕</td></tr>
<tr><td>FMV-6100MG2
FMV-610MG2</td><td>〔MG〕</td></tr>
<tr><td>FMV-665MC2</td><td>〔MC〕</td></tr>
<tr><td>FMV-273LS2
FMV-273LS2/WL</td><td>〔LS〕</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>モデル</th><th colspan="2">本文中の表記</th></tr>
<tr><td>モデム搭載</td><td colspan="2">モデム搭載モデル</td></tr>
<tr><td>有線 LAN 搭載</td><td>有線 LAN 搭載モデル</td><td rowspan="2">LAN 搭載モデル</td></tr>
<tr><td>ワイヤレス LAN 搭載</td><td>ワイヤレス LAN 搭載モデル</td></tr>
<tr><td>セキュリティボタン搭載</td><td colspan="2">セキュリティボタン搭載モデル</td></tr>
<tr><td>スマートカードホルダー添付</td><td colspan="2">スマートカード添付モデル</td></tr>
<tr><td>指紋センサー搭載</td><td colspan="2">指紋センサー搭載モデル</td></tr>
<tr><td>ワイヤレスマウス添付</td><td colspan="2">ワイヤレスマウス添付モデル</td></tr>
<tr><td>PS/2 マウス添付</td><td colspan="2">PS/2 マウス添付モデル</td></tr>
<tr><td>OADG キーボード搭載</td><td colspan="2">OADG キーボード搭載モデル</td></tr>
<tr><td>親指シフトキーボード搭載</td><td colspan="2">親指シフトキーボード搭載モデル</td></tr>
<tr><td>フロッピーディスクドライブ搭載</td><td colspan="2">フロッピーディスクドライブ搭載モデル</td></tr>
</table>

■ 警告ラベル／注意ラベル

本パソコンには警告ラベルおよび注意ラベルが貼ってあります。
警告ラベルや注意ラベルは、絶対にはがしたり、汚したりしないでください。

リサイクルについて

■ パソコン本体の廃棄について

パソコンの液晶ディスプレイ内の蛍光管には水銀が含まれております。

パソコンを廃棄する場合は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の規制を受けます。

なお、パソコンを使用していた状態のまま廃棄すると、ハードディスク内の情報を第三者に見られてしまう恐れがあります。廃棄するときは、すべてのドライブをフォーマットすることをお勧めします。

ただし、フォーマットやファイルを削除しただけでは、悪意を持った第三者によってデータが復元される可能性があります。機密情報や見られたくない情報を保存していた場合には、市販のデータ消去ソフトなどを利用して、データを消去し、復元されないようにすることをお勧めします。

- **法人・企業のお客様へ**

  パソコンを廃棄する場合は、産業廃棄物の扱いとなりますので、産業廃棄物処分業の許可を取得している会社に処分を委託する必要があります。弊社は、「富士通リサイクルシステム」を用意し、お客様の廃棄のお手伝いをしておりますのでご利用ください。

- **個人のお客様へ**

  パソコンを廃棄する場合は、一般廃棄物の扱いとなりますので、地方自治体の廃棄処理に関連する条例または規則に従ってください。

■ 富士通リサイクルシステムについて

弊社では 1998 年より、法人・企業のお客様から廃棄されるパソコン本体を「富士通リサイクルシステム」（有料）にて回収・リサイクルし、資源の有効利用に取り組んでおります。

お問い合わせ／お申し込み先 : http://eco.fujitsu.com の「富士通リサイクルシステム」をご参照ください。

なお、法人・企業以外のお客様はお申し込みできません。

■ 使用済バッテリパックの廃棄について

バッテリパック（リチウムイオン電池）は、貴重な資源です。リサイクルにご協力ください。

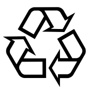
バッテリパックを火中に投じると破裂のおそれがあります。使用済バッテリパックは、ビニールテープなどで絶縁処理をしてください。

- **法人・企業のお客様へ**

  使用済バッテリパックを廃棄する場合は、富士通株式会社環境本部（電話番号：044-754-3411）にお問い合わせください。

- **個人のお客様へ**

  使用済バッテリパックは、「充電式電池リサイクル協力店くらぶ」に加入の販売店などに設置してあるリサイクル BOX に入れてください。



このマークは、リチウムイオン電池のリサイクルマークです。

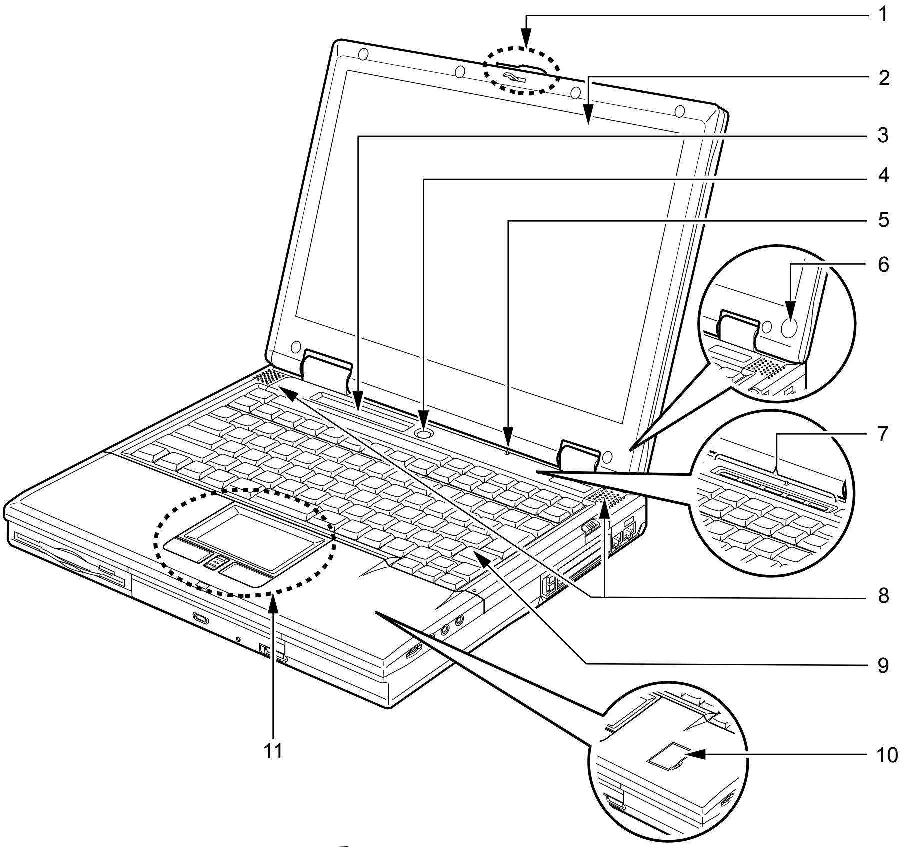
第 1 章

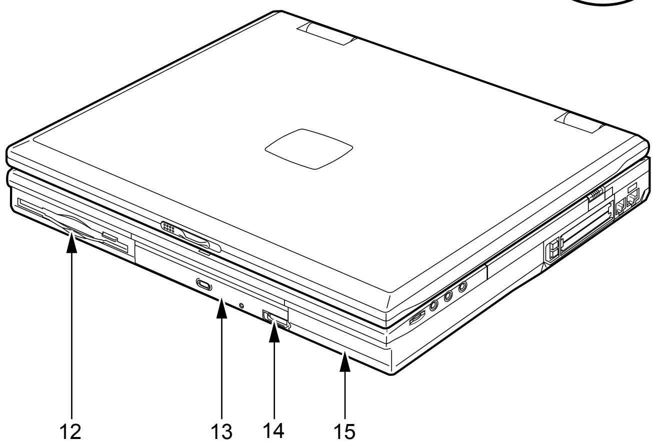
各部名称

各部の名称と働きについて説明しています。

1 各部の名称と働き

パソコン本体前面





（イラストは機種や状況により異なります）

1 ラッチ

液晶ディスプレイが不用意に開かないようにロックします。
液晶ディスプレイを開くときは、右にスライドしてロックを外します。

2 液晶ディスプレイ

本パソコンの画面を表示します。
お使いのモデルにより、以下のいずれかが取り付けられています。
・14.1 型 TFT カラー液晶ディスプレイ
・15 型 TFT カラー液晶ディスプレイ

POINT

- 液晶ディスプレイの特性について
  以下は液晶ディスプレイの特性なので故障ではありません。あらかじめご了承ください。
  ・本パソコンの TFT カラー液晶ディスプレイは高度な技術を駆使し、一画面上に 235 万個以上（解像度 1024 × 768 の場合）の画素（ドット）より作られております。このため、画面上の一部に点灯しないドットや、常時点灯するドットが存在する場合があります。
  ・本パソコンで使用している液晶ディスプレイは、製造工程により、各製品で色合いが異なる場合があります。また、温度変化などで多少の色むらが発生する場合があります。

3 状態表示 LCD

本パソコンの状態が表示されます。
「各部名称」－「状態表示 LCD について」（→ P.24）

4 電源ボタン

パソコン本体をスタンバイ（中断）／レジューム（回復）させるためのスイッチです。

5 カバークローズスイッチ

液晶ディスプレイを開閉したときに、パソコン本体をスタンバイ（中断）／レジューム（回復）させたり、液晶ディスプレイのバックライトを消灯させたりするためのスイッチです。
「機能」－「省電力」

6 ワイヤレスマウス受光部（ワイヤレスマウス添付モデルのみ）

ワイヤレスマウスの赤外線信号を受信します。
「ハードウェア」－「ワイヤレスマウスについて（ワイヤレスマウス添付モデルのみ）」（→ P.59）

7 セキュリティボタン（セキュリティボタン搭載モデルのみ）

添付の「セキュリティボタン」で設定したパスワードの入力や、添付の「ワンタッチボタン設定」で割り当てたアプリケーションの起動や E メールの受信などを行うボタンです。添付の「セキュリティボタン」または「ワンタッチボタン設定」をインストールすると、使用することができます（→「ソフトウェア」－「ソフトウェア一覧」）。
「セキュリティ」－「セキュリティボタンについて（セキュリティボタン搭載モデルのみ）」（→ P.78）

8 スピーカー

本パソコンの音声が出力されます。
「機能」－「音量の設定」

9 **キーボード**

文字を入力したり、パソコン本体に命令を与えます。

「ハードウェア」－「キーボードについて」（→ P.63）

10 **指紋センサー（指紋センサー搭載モデルのみ）**

指紋を識別してセキュリティを解除します。

「セキュリティ」－「指紋センサーについて（指紋センサー搭載モデルのみ）」（→ P.78）

11 **フラットポイント**

マウスポインタを操作します。

添付の「Alps Pointing-device Driver」をインストールすると、中央のスクロールボタンを使用することができます（→「ソフトウェア」－「ソフトウェア一覧」）。

また、お使いのモデルによっては、フラットポイントの代わりに PS/2 マウスが添付されている場合があります。

「ハードウェア」－「ポインティングデバイスについて」（→ P.53）

POINT

- お使いになるアプリケーションによっては、スクロールボタンによる画面のスクロールができない場合があります。

12 **フロッピーディスクドライブ（フロッピーディスクドライブ搭載モデルのみ）**

フロッピーディスクを読み書きします。

「ハードウェア」－「フロッピーディスクについて（フロッピーディスクドライブ搭載モデルのみ）」（→ P.72）

13 **マルチベイ**

お使いのモデルにより、以下のいずれかが取り付けられています。

・内蔵 CD-ROM ドライブユニット
・内蔵 CD-R/RW ドライブユニット
・内蔵 DVD-ROM&CD-R/RW ドライブユニット
・マルチベイ用カバー

ユニットは交換することができます。

「ハードウェア」－「マルチベイユニットについて」（→ P.45）

POINT

- 内蔵 CD-R/RW ドライブユニットや内蔵 DVD-ROM&CD-R/RW ドライブユニットをお使いになる場合は、『DVD-ROM&CD-R/RW ドライブ、CD-R/RW ドライブをお使いの方へ』もあわせてご覧ください。
- マルチベイに何も取り付けていない状態では、本パソコンを使用しないでください。故障の原因となります。

14 **ベイユニット取り外しレバー**

マルチベイに取り付けられているユニットを取り外す場合に使用します。

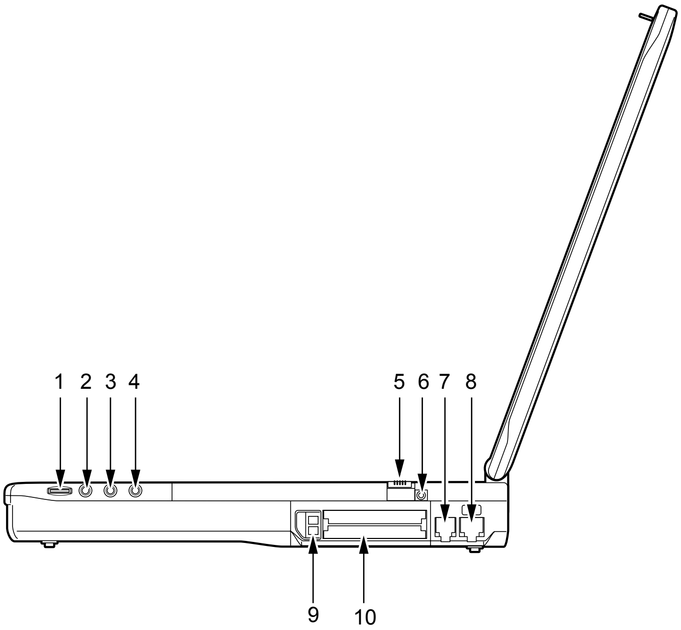
「ハードウェア」－「マルチベイユニットを交換する」（→ P.46）

15 **内蔵バッテリパック**

内蔵バッテリパックが装着されています。

「ハードウェア」－「バッテリパックを交換する」（→ P.35）

パソコン本体右側面



（イラストは機種や状況により異なります）

1 音量ボリューム

音量を調節します。手前側に回すと小さく、奥側に回すと大きくなります。
音声入出力時のバランスや音量などは、音量を設定する画面で設定できます。音量ボリュームで調節しても、音量が大きすぎたり、小さすぎたりする場合は、画面の音量つまみで調節してください。
「機能」－「音量の設定」

POINT

- 音量ボリュームで音量を調節しても音が聞こえない場合は、ピーという音がするまで【Fn】＋【F3】キーを押してください。また音量を設定する画面の設定がミュート（消音）になっていないか確認してください。

⚠注意

聴力障害

- ヘッドホン端子、ラインイン端子、マイク端子に接続するときは、パソコン本体の音量を最小にしてから接続してください。
機器が破損したり、刺激音により聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。

2 ヘッドホン端子

市販のヘッドホンを接続するための端子です（外径 3.5mm のミニプラグに対応）。ただし、形状によっては取り付けられないものがあります。ご購入前に確認してください。

⚠注意

聴力障害
- ヘッドホンなどをお使いになるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。

聴力障害
- ヘッドホンなどをしたまま電源を入れたり切ったりしないでください。刺激音により聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。

3 ラインイン端子

AV 機器などの出力（LINE OUT）端子と接続するためのアナログ入力（LINE IN）端子です（外径 3.5mm のステレオミニプラグに対応）。

4 マイク端子

市販のマイクを接続し、音声（モノラル）を録音するための端子です（外径 3.5mm のミニプラグに対応）。
ただし、市販されているマイクの一部の機種（ダイナミックマイクなど）には、使用できないものがあります。ご購入前に確認してください。

5 ワイヤレススイッチ（ワイヤレス LAN 搭載モデルのみ）

ワイヤレス LAN による通信の ON と OFF を切り替えます。
病院や飛行機内、その他電子機器使用の規制がある場所では、スイッチを OFF にしてください。

POINT

- ワイヤレス LAN について詳しくは、『ワイヤレス LAN をお使いになる方へ（IEEE802.11b 準拠）』をご覧ください。

6 ワイヤレス LAN 用アンテナ接続コネクタ（ワイヤレス LAN 搭載モデルのみ）

別売のワイヤレス LAN 用アンテナ（FMV-WANT1）を取り付ける場合のコネクタです。
ご購入時には、保護用ゴムキャップが付いています。

7 モデムコネクタ（モデム搭載モデルのみ）

モジュラーケーブルを接続するためのコネクタです。
「機能」－「内蔵 FAX モデムについて」

8 LAN コネクタ

LAN ケーブルを接続するためのコネクタです。
「機能」－「内蔵 LAN について」

9 PC カード取り出しボタン

PC カードを取り出すときに押します。
「ハードウェア」－「PC カードを取り出す」（→ P.39）

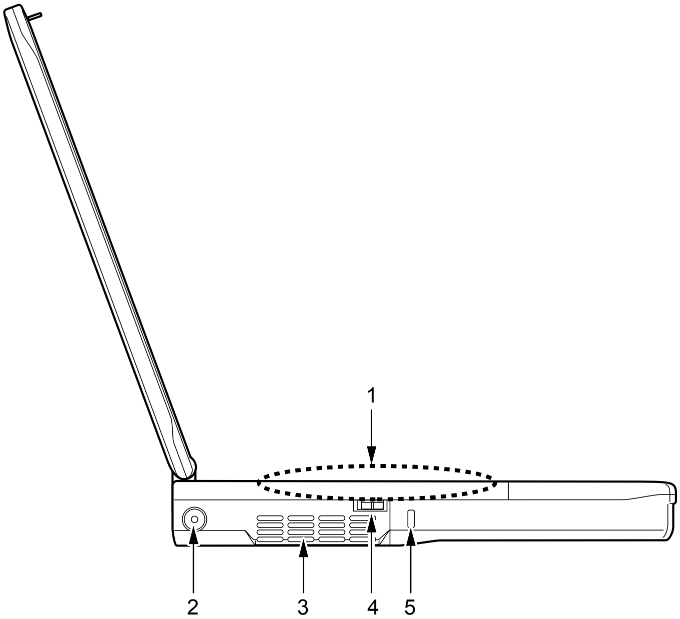
10 PC カードスロット

PC カードをセットするためのスロットです。
下段がスロット 1、上段がスロット 2 です。
「ハードウェア」－「PC カードをセットする」（→ P.38）

POINT

- お使いになる OS によっては「スロット 1」を「スロット 0」、「スロット 2」を「スロット 1」に読み替える場合があります。

パソコン本体左側面



1 内蔵ワイヤレス LAN アンテナ（ワイヤレス LAN 搭載モデルのみ）
ワイヤレス LAN 用アンテナが内蔵されています。

POINT

- 本パソコンの使用中、特にワイヤレス LAN で通信中はアンテナ部分には極力触れないでください。
また、本パソコンを設置する場合には、設置面が金属などの導体（電気を通しやすいもの）でできている場所は避けてください。通信性能が低下し、設置環境によっては通信できなくなることがあります。
- ワイヤレス LAN について詳しくは、『ワイヤレス LAN をお使いになる方へ（IEEE802.11b 準拠）』をご覧ください。

2 DC-IN コネクタ
添付の AC アダプタを接続するためのコネクタです。

3 排気孔
パソコン本体内部の熱を外部に逃がすためのものです。
パソコンの電源を入れると、内部のファンが数秒間回転します。また、パソコン本体内部の温度が高くなると内部のファンが回転し、熱が放出されます。

⚠注意

故障

- 排気孔はふさがないでください。
パソコン本体内部に熱がこもり、故障の原因となることがあります。

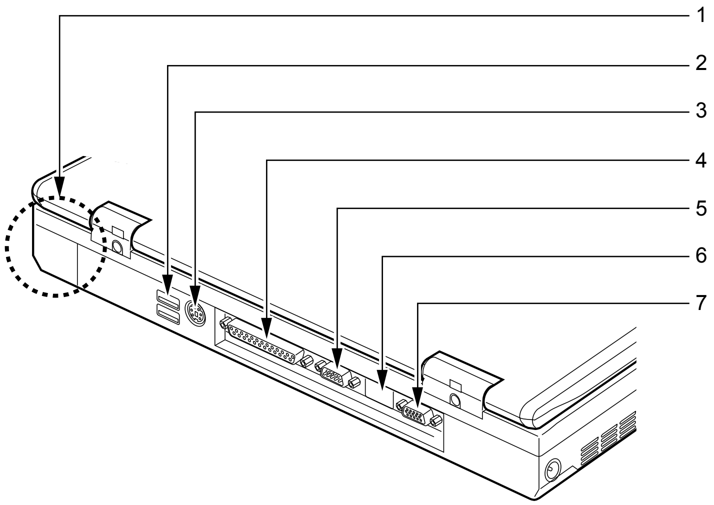
4 主電源スイッチ
本パソコンの主電源スイッチです。

5 盗難防止用ロック
市販の盗難防止用ケーブルを接続することができます。

POINT

- 盗難防止用ロックは、Kensington 社製のマイクロセーバーセキュリティシステムに対応しています。
  商品名：マイクロセーバー（セキュリティワイヤー）
  商品番号：0522010
  （富士通コワーコ株式会社　お問い合わせ：03-3342-5375）

パソコン本体背面



（イラストは機種や状況により異なります）

1 内蔵ワイヤレス LAN アンテナ（ワイヤレス LAN 搭載モデルのみ）

ワイヤレス LAN 用アンテナが内蔵されています。

POINT

- 本パソコンの使用中、特にワイヤレス LAN で通信中はアンテナ部分には極力触れないでください。
  また、本パソコンを設置する場合には、設置面が金属などの導体（電気を通しやすいもの）でできている場所は避けてください。通信性能が低下し、設置環境によっては通信できなくなることがあります。
- ワイヤレス LAN について詳しくは、『ワイヤレス LAN をお使いになる方へ（IEEE802.11b 準拠）』をご覧ください。

2 USB コネクタ（Windows NT ではサポート外）

USB 接続に対応したプリンタなど、USB 規格の周辺機器を接続するためのコネクタです。

3 拡張キーボード／マウスコネクタ

PS/2 マウスや PS/2 キーボードを接続するためのコネクタです。

「ハードウェア」－「テンキーボードについて」（→ P.48）
「ハードウェア」－「PS/2 マウスについて」（→ P.56）

4 パラレルコネクタ

プリンタなどを接続するためのコネクタです。

「ハードウェア」－「プリンタについて」（→ P.49）

5 シリアルコネクタ

RS-232C 準拠の機器を接続するためのコネクタです。

6 赤外線通信ポート（Windows NT ではサポート外）

赤外線通信を行うためのインターフェースです。

POINT

- 赤外線通信ポートは、Windows XP/2000/Me モデルでは、「ワイヤレスリンク」にてお使いになれます。Windows 98 モデルではインストールされているアプリケーション「Intellisync」にてお使いになれます。
- 赤外線通信を行っているときは、赤外線通信ポートにACアダプタや外部ディスプレイを近づけないでください。ノイズによる誤動作の原因となります。

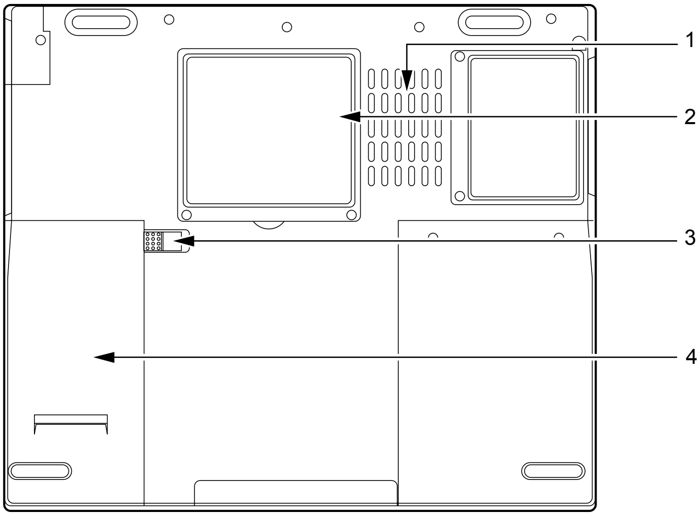
7 外部ディスプレイコネクタ

CRT ディスプレイなど、外部ディスプレイを接続するためのコネクタです。
「ハードウェア」－「外部ディスプレイについて」（→ P.51）

重 要

- 各コネクタに周辺機器を接続する場合は、コネクタの向きを確かめて、まっすぐ接続してください。

パソコン本体下面



1 吸気孔
排気孔が空気を取り込むための穴です。

⚠注意

故障

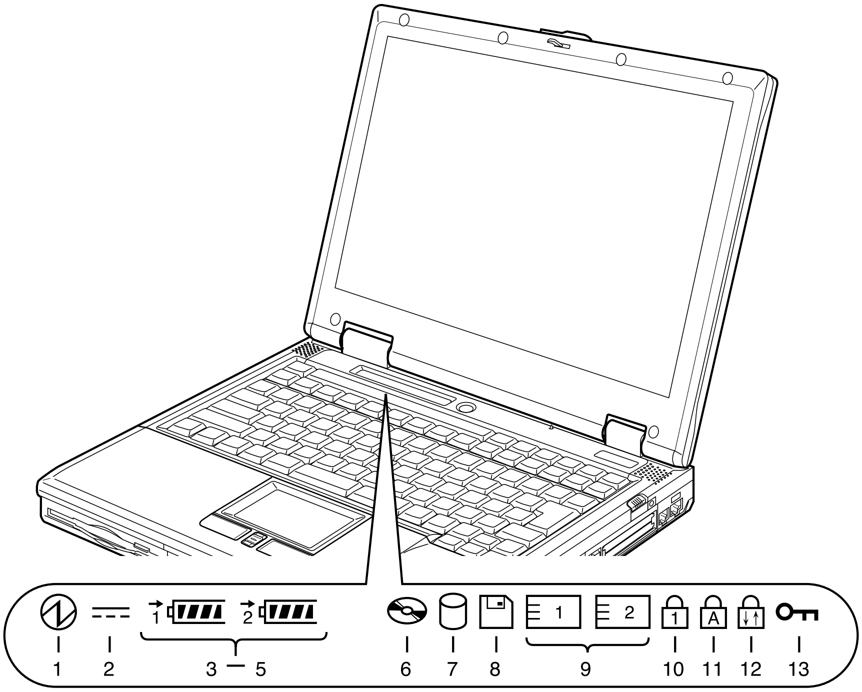
- 吸気孔はふさがないでください。
パソコン本体内部に熱がこもり、故障の原因となることがあります。

2 拡張 RAM モジュールスロット
本パソコンのメモリをセットするためのスロットです。
「ハードウェア」－「メモリについて」（→ P.42）

3 内蔵バッテリパックロック
内蔵バッテリパックを取り外すときにスライドさせます。
「ハードウェア」－「バッテリパックを交換する」（→ P.35）

4 内蔵バッテリパック
内蔵バッテリパックが装着されています。
「ハードウェア」－「バッテリパックを交換する」（→ P.35）

2 状態表示 LCD について



POINT

- 主電源スイッチが OFF の場合は、充電中を除いて状態表示 LCD の全表示が消灯します。

1 SUS/RES 表示（ ）

本パソコンが動作状態のときに点灯し、スタンバイのときに点滅します。

2 AC アダプタ表示（ ）

AC アダプタから電源が供給されているときに点灯します。

3 バッテリ装着表示（1、2、 ）

バッテリが取り付けられているときに点灯します。1 は内蔵バッテリ、2 はマルチベイの増設バッテリを表します。

4 バッテリ充電表示（ ）

バッテリが充電しているときに点灯します。

「ハードウェア」－「バッテリを充電する」（→ P.30）

5 バッテリ残量表示（ ）

バッテリの残量を表示します。

「ハードウェア」－「バッテリ残量を確認する」（→ P.32）

6 CD アクセス表示（）

CD などにアクセスしているときに点灯します。

POINT

- Windows Me/98 では、CD の自動挿入が有効になっていると、定期的に CD の有無の検出が行われます。そのため、状態表示 LCD の CD アクセス表示が定期的に点灯する場合があります。自動挿入を無効にするには、次のように操作してください。
  1. 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
  2. 「システム」アイコンをクリックします。
  3. 「デバイスマネージャ」タブをクリックします。
  4. 「CD-ROM」をダブルクリックします。
     CD-ROM デバイスが表示されます。
  5. CD-ROM デバイスをクリックし、「プロパティ」をクリックします。
     「CD-ROM デバイスのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
  6. 「設定」タブをクリックします。
  7. 「オプション」の「挿入の自動通知」をクリックし、無効にします。
  8. 「OK」をクリックします。
  9. 「システムのプロパティ」ウィンドウの「OK」または「閉じる」をクリックします。
  10. Windows Me では「システム設定の変更」ウィンドウで「はい」をクリックします。
      Windows 98 では「コントロールパネル」ウィンドウに戻ります。「スタート」ボタンをクリックし、本パソコンを再起動します。

  自動挿入を有効に戻すときは、手順 7 で「挿入の自動通知」をクリックし、チェックを付けます。

7 ハードディスクアクセス表示（）

内蔵ハードディスクにアクセスしているときに点灯します。

POINT

- ハードディスクアクセス表示が点灯中に、主電源スイッチを OFF にしたり、電源ボタンを操作すると、ハードディスクのデータが壊れるおそれがあります。

8 フロッピーディスクアクセス表示（）

フロッピーディスクやスーパーディスクにアクセスしているときに点灯します。

POINT

- フロッピーディスクアクセス表示が点灯中に、主電源スイッチを OFF にしたり、電源ボタンを操作すると、フロッピーディスクやスーパーディスクのデータが壊れるおそれがあります。

9 PC カードアクセス表示（1、2）

PC カードにアクセスしているときに点灯します。下段がスロット 1、上段がスロット 2 です。

POINT

- PC カードアクセス表示は、お使いになる OS によっては「スロット 1」を「スロット 0」、「スロット 2」を「スロット 1」に読み替える場合があります。

10 Num Lock 表示（1）

キーボードがテンキーモードのときに点灯します。【Num Lk】キーを押して、テンキーモードの設定と解除を切り替えます。

「ハードウェア」－「キーボードについて」（→ P.63）

11 Caps Lock 表示（）

英大文字固定モード（英字を大文字で入力する状態）のときに点灯します。

【Shift】+【Caps Lock】キーを押して、英大文字固定モードの設定と解除を切り替えます。

12 Scroll Lock 表示（）

画面をスクロールしないように設定（スクロールロック）したときに点灯します。

【Fn】＋【Num Lk】キーを押して、スクロールロックの設定と解除を切り替えます。

点灯中の動作は、アプリケーションに依存します。

13 セキュリティ表示（）（セキュリティボタン搭載モデルのみ）

添付の「セキュリティボタン」でパスワードを設定している場合、パスワード要求時に点灯します。パソコン本体の電源を入れたときやレジューム時にセキュリティ表示が点灯したらパスワードを入力してください。

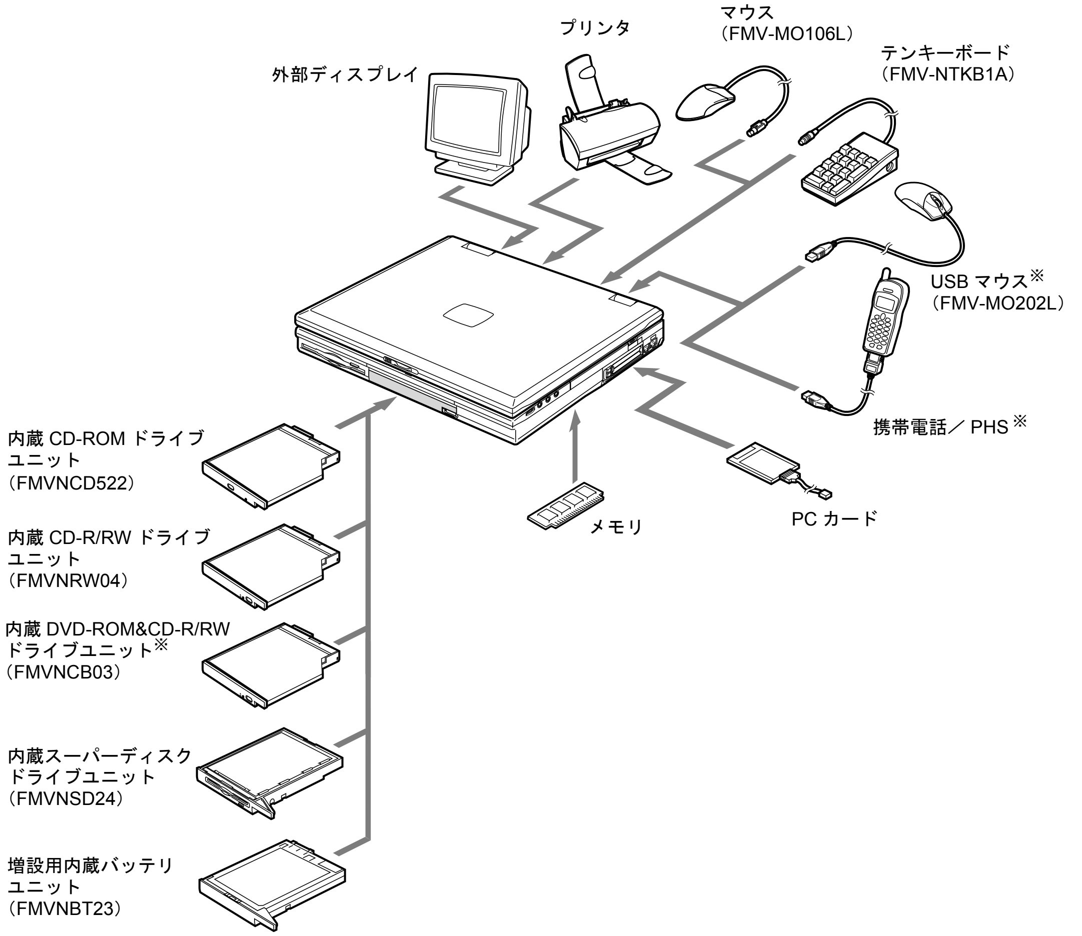
第 2 章

ハードウェア

本パソコンを使用するうえでの基本操作や、本パソコンに取り付けられている（取り付け可能な）周辺機器の基本的な取り扱い方について説明しています。

1 周辺機器を取り付ける前に

使用できる周辺機器



※：Windows NT ではサポートしていません。

取り扱い上の注意

ここでは周辺機器を接続する前に、予備知識として知っておいていただきたいことを説明します。

- **周辺機器によっては設定作業が必要です**
  パソコンの周辺機器の中には、接続するだけでは正しく使えないものがあります。このような機器は、接続した後で設定作業を行う必要があります。たとえば、プリンタや PC カードを使うには、取り付けた後に「ドライバのインストール」という作業が必要です。また、メモリなどのように、設定作業がいらない機器もあります。周辺機器の接続は、本書をよくご覧になり、正しく行ってください。
- **マニュアルをご覧ください**
  ケーブル類の接続は、本書をよく読み、接続時に間違いがないようにしてください。誤った接続状態で使用すると、本パソコンおよび周辺機器が故障する原因となることがあります。
  本書で説明している周辺機器の取り付け方法は一例です。本書とあわせて周辺機器のマニュアルも必ずご覧ください。
- **純正品をお使いください**
  弊社純正のオプション機器については、「システム構成図」をご覧ください。
  他社製品につきましては、本パソコンで正しく動作するかどうか、保証いたしかねます。他社製品をお使いになる場合は、製造元のメーカーにお問い合わせくださいますようお願いいたします。
- **ACPI に対応した周辺機器をお使いください**
  Windows XP/2000/Me/98 では ACPI モードに設定されています。ACPI モードに対応していない周辺機器をお使いの場合、省電力機能などが正しく動作しない場合があります。
  また、本パソコンでは、低レベルのスタンバイ（ACPI S1）をサポートしていません。
  お使いになる周辺機器が低レベルのスタンバイのみサポートしている場合、本パソコンをスタンバイや休止状態にしないでください。
- **周辺機器の電源は、本パソコンの電源を入れる前に入れてください**
  電源を入れて使う周辺機器を取り付けた場合は、周辺機器の電源を入れてから本パソコンの電源を入れてください。また、周辺機器の電源を切るときは、本パソコンの電源を切ってから周辺機器の電源を切ってください。

重要

- コネクタに周辺機器を取り付ける場合は、コネクタの向きを確認し、まっすぐ接続してください。
- 複数の周辺機器を取り付ける場合は、1 つずつ取り付けて設定を行ってください。

2 バッテリについて

バッテリを充電する

1 AC アダプタを接続します。

AC アダプタを接続すると充電が始まり、状態表示 LCD にバッテリ充電表示（➡）と、そのときのバッテリ残量が表示されます。

2 バッテリ充電表示が消えたことを確認し、AC アダプタを取り外します。

POINT

- 充電時間については、「技術情報」－「仕様一覧」（→ P.106）をご覧ください。
- 本パソコンご購入時、または 1ヶ月以上充電していない場合は、バッテリを充電してからお使いください。
- バッテリの充電は、バッテリ充電表示が消え、左端のバッテリ残量表示が点滅（ ）から点灯（ ）に変わると完了です。バッテリの充電は十分に時間をかけて行い、満充電状態にしてください。
- バッテリ残量が 90%以上残っている場合は、AC アダプタを取り付けても充電されません。89%以下で充電されます。
- 主電源スイッチを OFF にしている場合、充電が完了してしばらくすると状態表示 LCD の全表示が消灯します。
- 周囲の温度が高すぎたり低すぎたりすると、バッテリの充電能力は低下します。
- バッテリ運用直後の充電などでは、バッテリの温度が上昇しているため、バッテリの保護機能が働いて充電が行われない場合があります（バッテリ充電表示が点滅します）。しばらくして、バッテリの温度が低下すると充電が開始されます。
- 増設バッテリを取り付けた場合、充電は内蔵バッテリ、増設バッテリの順に行われます。

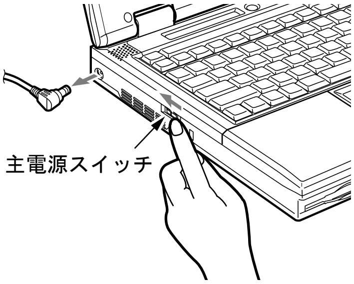
バッテリを運用する

ここでは、本パソコンをバッテリで運用する場合について説明します。

1 AC アダプタを取り外し、主電源スイッチを ON にします。

主電源スイッチを矢印の方向（ | 側）へスライドさせます。

（電源アイコン）が点灯します。



POINT

- 主電源スイッチが ON のときは、電源ボタンを押してください。
- 周囲の温度が低いと、バッテリ稼働時間は短くなります。
- バッテリ稼働時間については、「技術情報」－「仕様一覧」（→ P.106）をご覧ください。
- バッテリを長期間使用すると充電する能力が低下するため、バッテリ稼働時間が短くなります。稼働時間が極端に短くなってきたら、新しいバッテリに交換してください。
- バッテリの温度が上昇すると、パソコンの動作が遅くなる場合があります。その場合には、AC アダプタを接続してください。
- 増設バッテリを取り付けた場合、放電は増設バッテリ、内蔵バッテリの順に行われます。

バッテリ残量を確認する

バッテリの残量は、電源が入っているときや充電中に、状態表示 LCD のバッテリ残量表示で確認できます。

■ バッテリの残量表示

約 100%～約 76%のバッテリ残量を示します。

約 75%～約 51%のバッテリ残量を示します。

約 50%～約 26%のバッテリ残量を示します。

約 25%～約 13%のバッテリ残量を示します（充電中は、0%～約 25%のバッテリ残量を示します)。

LOW バッテリ状態（約 12%以下のバッテリ残量）を示します。が点滅します（→ P.33）。

バッテリ切れ状態（0%のバッテリ残量）を示します。

POINT

- バッテリ残量表示は、バッテリ（リチウムイオン電池）の特性上、使用環境（温度条件やバッテリの充放電回数など）により、実際のバッテリ残量とは異なる表示をする場合があります。
- バッテリ残量が 90%以上残っている場合は､AC アダプタを取り付けても充電されません。89%以下で充電されます。

■ バッテリの異常表示

バッテリが正しく充電できないことを示します。

POINT

- が点滅している場合は､パソコン本体の電源を切ってからバッテリの取り付けをやり直してください。それでも点滅している場合はバッテリが異常です。新しいバッテリと交換してください。
「ハードウェア」－「バッテリパックを交換する」（→ P.35）
「ハードウェア」－「マルチベイユニットを交換する」（→ P.46）

LOW バッテリ状態

ここでは、本パソコンのバッテリが LOW バッテリ状態になった場合の表示と、その対処方法を説明します。

■ LOW バッテリ状態の表示

バッテリが LOW バッテリ状態になると、状態表示 LCD のバッテリ残量表示が点滅します（）。

POINT

- Windows XP/2000/Me/98 では、Windows の省電力機能で警告音が鳴るように設定できます（→「機能」－「省電力の設定」）。
  ただし、スピーカーを OFF にしていると、警告音が聞こえません。【Fn】＋【F3】キーを押して、スピーカーの ON と OFF を切り替えてください。ピーと音がした場合は ON、音がしない場合は OFF になります。
- OS の起動前（BIOS セットアップなど）や Windows NT では、警告音が鳴るように設定できません。

■ LOW バッテリ状態の対処

AC アダプタを接続して、バッテリを充電してください。

POINT

- LOW バッテリ状態のまま使用し続けると、作成中または保存中のデータが失われることがあります。すみやかに AC アダプタを接続してください。また、AC アダプタがない場合は、作成中のデータを保存し、動作中のアプリケーションを終了後、本パソコンの電源を切ってください。
- ハードディスクへの読み書きは大量の電力を使います。LOW バッテリ状態で、ハードディスクへデータを保存する場合は、AC アダプタを接続してください。
- Windows XP/2000/Me/98 ではバッテリ残量が約 3% になったら、自動的にスタンバイするように設定されています。設定を変更する場合は、次の項目のチェックを外してください。
  - ・Windows XP/2000/98 の場合
    「電源オプションのプロパティ」または「電源の管理のプロパティ」ウィンドウの「アラーム」タブの「バッテリ切れアラーム」の「電源レベルが次に達したらバッテリ切れアラームで知らせる」
  - ・Windows Me の場合
    「電源の管理のプロパティ」ウィンドウの「アラーム」タブの「バッテリ消耗の警告」の「電源レベルが次に達したらバッテリ消耗の警告で知らせる」

  ただし、これらの設定を変更すると、バッテリが切れた時点で電源が切断されます。そのため、保存中や作成中のデータが失われたり、パソコン本体の動作が不安定になることがあります。
- Windows NT では、バッテリ残量が少なくなったときに自動的にスタンバイしたり、警告音が鳴るように設定することはできません。バッテリで使用中は、バッテリ残量に気を付けてください。なお、バッテリが切れた時点で電源が切断されるため、保存中や作成中のデータが失われたり、パソコン本体の動作が不安定になることがあります。

取り扱い上の注意

⚠警告

感　電

● バッテリは、大変デリケートな製品です。取り付け／取り外しを行う場合は、落下させるなどして、強い衝撃を与えないでください。また、安全を考慮し、強い衝撃を与えたバッテリは、使用しないでください。
感電や破裂の原因となります。

● **分解しないでください**
バッテリを分解して内部に触れると、感電・火災の原因となります。

● **放電について**
・バッテリは、充電後にお使いにならなくても、少しずつ自然放電していくので、使う直前に充電することをお勧めします。
・長期間（約 1ヶ月以上）本パソコンをお使いにならない場合は、バッテリを取り外して涼しい場所に保管してください。パソコン本体に取り付けたまま長期間放置すると過放電となり、バッテリの寿命が短くなります。

● **寿命について**
・パソコン本体を長期間使用しない場合でも、バッテリは消耗し劣化します。月に一度はパソコン本体をバッテリで運用し、バッテリの状態を確認してください。
・高温環境に放置した場合、バッテリの消耗、劣化が進みます。
・バッテリは消耗品なので、長期間使用すると充電能力が低下します。その場合は新しいバッテリと交換してください。
・バッテリの稼働時間が極端に短くなってきたらバッテリの寿命です。
・寿命になったバッテリは、パソコン本体から取り外してください。取り付けたまま放置すると、感電や火災の原因となります。

● **廃棄について**
バッテリを廃棄する場合は、ショート（短絡）防止のために、バッテリパックのコネクタに絶縁テープを貼るなどの処置を行ってください。

● **バッテリ稼働時間について**
・バッテリ稼働時間を長くするには、省電力機能を利用します（→「機能」－「省電力」）。
・バッテリ稼働時間は環境温度に影響され、低温時はバッテリ稼働時間が短くなる場合があります。

● **次のような場合は AC アダプタを使用してください**
・ハードディスクや CD、スーパーディスクなどを頻繁に使用するとき
・LAN やモデムを頻繁に使用するとき
・本パソコンをご購入時の状態に戻すとき

● **次のような場合はバッテリ残量に注意して使用してください**
・ワイヤレス LAN などのワイヤレス機器を使用するとき
・BIOS セットアップを操作するとき
・Windows NT をお使いの場合

バッテリパックを交換する

内蔵バッテリパックの交換は、プログラムやデータをハードディスクなどに保存してから行います。ここでは、内蔵バッテリパックの交換について説明します。

警告

感電

- バッテリパックの交換を行う場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外してください。また、パソコン本体やバッテリパックのコネクタに触れないでください。
感電や故障の原因となります。

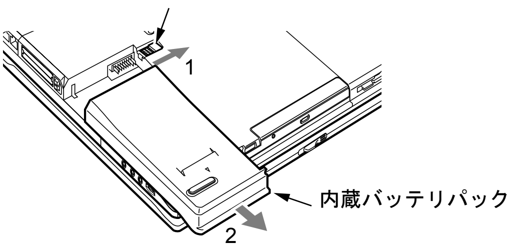
POINT

- 新しい内蔵バッテリパックは、次の製品をお求めください。
商品名：Li-ion バッテリパック FM-35A（標準）
商品番号：0644060
商品名：Li-ion バッテリパック FM-35B（大容量）
商品番号：0644070
（富士通コワーコ株式会社 お問い合わせ：03-3342-5375）
- 増設バッテリの取り付け／取り外しについては、「ハードウェア」－「マルチベイユニットを交換する」（→ P.46）をご覧ください。

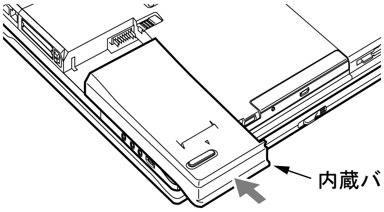
1 パソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外します。

2 液晶ディスプレイを閉じ、パソコン本体を裏返します（→『取扱説明書』）。

3 内蔵バッテリパックを取り外します。
内蔵バッテリパックロックをスライドさせながら（1）、バッテリパックを取り外します（2）。



4 新しい内蔵バッテリパックをスライドさせながら取り付けます。



重 要

- 取り出した内蔵バッテリパックは、ショート（短絡）防止のために、内蔵バッテリパックのコネクタに絶縁テープを貼るなどの処置を行ってください。なお、取り外した内蔵バッテリパックは乾電池などの電池と混ぜないようにしてください。また、内蔵バッテリパック（リチウムイオン電池）は、貴重な資源です。廃棄する場合は、リサイクルにご協力をお願いします。

3 PC カードについて

取り扱い上の注意

⚠注意

故 障

- PC カードは、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体に留った静電気により破壊される場合があります。PC カードを取り扱う前に、一度金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。

故障を防ぐため、PC カードをお使いになるときは、次の点に注意してください。

- 温度の高い場所や直射日光のあたる場所には置かないでください。
- 強い衝撃を与えないでください。
- 重い物を載せないでください。
- コーヒーなどの液体がかからないように注意してください。
- 保管する場合は、必ず専用のケースに入れてください。

POINT

- PC カードの種類によっては､2 枚同時には使用できないものがあります｡お使いになる PC カードのマニュアルで確認してください。
- 本パソコンでは LAN カードが使えない場合があります。また、モデム搭載モデルではモデムカードが使えない場合があります。
- 本パソコンでは､3.3V または 5V を使用する PC カードのみサポートしています｡12V を使用する PC カードはサポートしていません。

PC カードをセットする

ここでは、PC カードのセットについて説明します。

⚠ 注意

けが

- PC カードをセットするときは、PC カードスロットに指を入れないでください。
  けがの原因となることがあります。

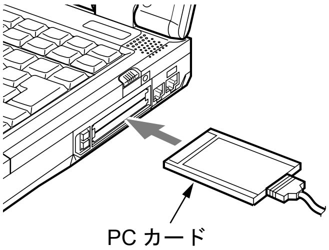
POINT

- PC カードによっては、お使いの OS に関わらず、セットするときに電源を切る必要のあるものがあります。お使いになる PC カードのマニュアルで確認してください。
- PC カードによっては、ドライバのインストールが必要なものがあります。お使いになる PC カードのマニュアルをご覧になり、必要に応じてドライバをインストールしてください。
- Windows 2000/NT の場合、OS の画面で表示される PC カードのスロット番号と、状態表示 LCD に表示される PC カードのスロット番号は異なります。
- Windows NT モデルではパソコン本体の電源を切ってから PC カードをセットしてください。ただし、Portables Suite を使用している場合は、パソコン本体の電源を切らずに PC カードをセットすることができます（→「ソフトウェア」－「ソフトウェア一覧」）。

1 Windows NT の場合は、パソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外します（→『取扱説明書』）。

2 パソコン本体右側面の PC カードスロットに、PC カードをセットします。

PC カードの製品名を上にして PC カードスロットに差し込みます。



3 Windows NT の場合は、AC アダプタを取り付け、パソコン本体の電源を入れます（→『取扱説明書』）。

POINT

- コード付きの PC カードをお使いの場合、PC カードとコードを接続しているコネクタ部分に物をのせたり、ぶつけたりしないでください。破損の原因となります。

PC カードを取り出す

ここでは、各 OS での PC カードの取り出し方について説明します。

POINT

- コード付きのPCカードを取り出す場合､PCカードのコードを引っ張らないでください｡破損の原因となります。
- PC カードを取り出す場合は、次の手順で行ってください。手順どおり行わないと、故障の原因となります。
- PC カードによっては、取り出すときに電源を切る必要のあるものがあります。PC カードのマニュアルで確認してください。

⚠ 注意

高 温

- PC カードの使用終了直後は、PC カードが高温になっている場合があります。PC カードを取り出すときは、手順 3（Windows NT の場合は手順 1）の後、しばらく待ってから取り出してください。火傷の原因となることがあります。

け が

- PC カードを取り出すときは､PC カードスロットに指などを入れないでください｡けがの原因となることがあります。

■ Windows XP の場合

1 タスクバーの「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンをクリックします。

POINT

- タスクバーの「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンをダブルクリックして表示される「ハードウェアの安全な取り外し」ウィンドウで､「停止」をクリックして PC カードを取り出さないでください。パソコン本体の動作が不安定になる場合があります。

2 「XXXXXX を安全に取り外します」をクリックします。

XXXXXX には、お使いの PC カードの名称が表示されます。

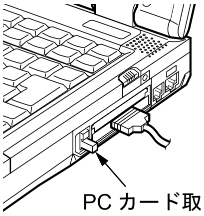
POINT

- 「デバイス’汎用ボリューム’を今停止できません。後でデバイスの停止をもう一度実行してください。」というメッセージが表示された場合は､「OK」をクリックし、PC カードにアクセスしていないことを確認した後、もう一度手順 1 からやり直してください。

3 「ハードウェアの取り外し」というメッセージが表示されたことを確認します。

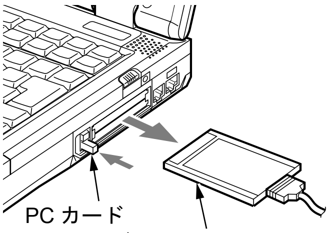
4 PC カード取り出しボタンを押します。

PC カード取り出しボタンを軽く一回押すと、ボタンが少し飛び出ます。



5 PC カードを取り出します。

飛び出した PC カード取り出しボタンを押し、PC カードを取り出します。



■ Windows 2000 の場合

1 タスクバーの「ハードウェアの取り外しまたは取り出し」アイコンをクリックします。

POINT

- タスクバーの「ハードウェアの取り外しまたは取り出し」アイコンをダブルクリックして表示される「ハードウェアの取り出し」ウィンドウで、「停止」をクリックして PC カードを取り出さないでください。パソコン本体の動作が不安定になる場合があります。

2 「XXXXXX を停止します」をクリックします。

XXXXX には、お使いの PC カードの名称が表示されます。

POINT

- 「デバイス’汎用ボリューム’を今停止できません。後でデバイスの停止をもう一度実行してください。」というメッセージが表示された場合は、「OK」をクリックし、PC カードにアクセスしていないことを確認した後、もう一度手順 1 からやり直してください。

3 「OK」をクリックします。

4 PC カードを取り出します。

Windows XP の場合の手順 4 〜 5 を参照し（→ P.40）、PC カードを取り出します。

■ Windows NT の場合

POINT

- Portables Suite を使用している場合は、パソコン本体の電源を切らずに PC カードを取り出すことができます（→「ソフトウェア」－「ソフトウェア一覧」参照）。

1 パソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外します（→『取扱説明書』）。

2 PC カードを取り出します。

Windows XP の場合の手順 4 ～ 5 を参照し（→ P.40）、PC カードを取り出します。

■ Windows Me の場合

1 タスクバーの「ハードウェアの取り外し」アイコンをクリックします。

POINT

- タスクバーの「ハードウェアの取り外し」アイコンをダブルクリックして表示される「ハードウェアの取り外し」ウィンドウや、コントロールパネルの「PC カード」アイコンをクリックして表示される「PC カード（PCMCIA）のプロパティ」ウィンドウで、「停止」をクリックして PC カードを取り出さないでください。パソコン本体の動作が不安定になる場合があります。

2 「XXXXXX の停止」をクリックします。

XXXXXX には、お使いの PC カードの名称が表示されます。

3 「OK」をクリックします。

4 PC カードを取り出します。

Windows XP の場合の手順 4 ～ 5 を参照し（→ P.40）、PC カードを取り出します。

■ Windows 98 の場合

1 タスクバーの「PC カード」アイコンをクリックします。

POINT

- タスクバーの「PC カード」アイコンをダブルクリックしたり、コントロールパネルの「PC カード」アイコンをクリックして表示される「PC カード（PCMCIA）のプロパティ」ウィンドウで、「停止」をクリックして PC カードを取り出さないでください。パソコン本体の動作が不安定になる場合があります。

2 「XXXXXXXX の停止」をクリックします。

XXXXXXXX には、お使いの PC カードの名称が表示されます。

3 「OK」をクリックします。

4 PC カードを取り出します。

Windows XP の場合の手順 4 ～ 5 を参照し（→ P.40）、PC カードを取り出します。

4 メモリについて

メモリを取り付ける／取り外す

ここでは、本パソコンに搭載されているメモリの取り付け／取り外しについて説明します。

⚠警告

感電
- メモリの取り付け／取り外しを行う場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外してください。
  感電の原因となります。

誤飲
- 取り外したカバー、キャップ、ネジなどの小さな部品は、小さなお子様が誤って飲み込むと窒息の原因となります。保護者の方は、小さなお子様の手の届かない所に置くように注意してください。
  万一、飲み込んだ場合は、直ちに医師と相談してください。

⚠注意

故障
- メモリの取り付け／取り外しを行う場合は、端子やICなどに触れないようメモリのふちを持ってください。また、パソコン本体内部の部品や端子などにも触れないでください。指の油分などが付着すると、接触不良の原因となることがあります。

故障
- メモリは、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体に留った静電気により破壊される場合があります。メモリを取り扱う前に、一度金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。

故障
- メモリの取り付け／取り外しを行う場合は、必ずパソコン本体の電源を切ってください。
  Windows XP/2000/Me/98 のスタンバイや休止状態で行うと、データが消失したり、パソコン本体やメモリが故障する原因となることがあります。

重要

- 本パソコンのネジを取り外すときは、ネジのサイズ（M2.5）に合ったプラスのドライバー 1 番をお使いください。他のドライバーを使うと、ネジの頭をつぶすおそれがあります。
- 取り付けるメモリは、本パソコンでサポートしているメモリをご使用ください。
  FMVNM51D（512MB）、FMVNM25D（256MB）、FMVNM12D（128MB）がお使いになれます。

POINT

- メモリを取り付け、メモリの容量を確認するには、BIOS セットアップの「情報」メニューの「メモリスロット」の項目を見ます（→ P.94）。「128MB DDR SDRAM」などと取り付けたメモリの容量が表示されます。取り付けが正しいにもかかわらず本パソコンが起動しない場合は、メモリが故障または不良です。「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。
- 取り外したネジなどをパソコン本体内部に落とさないでください。故障の原因となることがあります。
- 操作に必要な箇所以外には手を触れないでください。故障の原因となることがあります。
- メモリを 1GB などに増やす場合は、あらかじめ取り付けられているメモリを取り外して交換する必要があります。

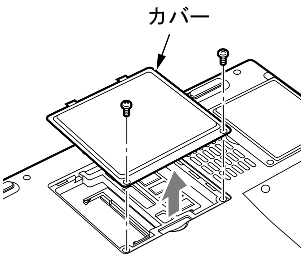
■ メモリを取り付ける

1 パソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外します（→『取扱説明書』）。

2 液晶ディスプレイを閉じ、パソコン本体を裏返します。

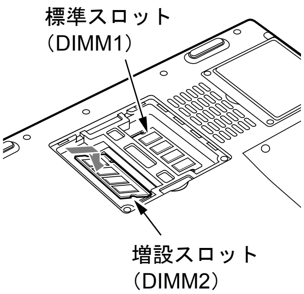
3 カバーを取り外します。

パソコン本体下面のネジを外し、カバーを取り外します。



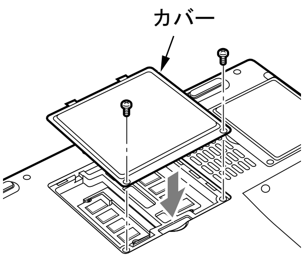
4 メモリを取り付けます。

メモリの欠けている部分と、コネクタの突起を合わせ、斜め上からしっかり差し込み、パチンと音がするまで下に倒します。



5 カバーを取り付け、ネジで固定します。

手順 3 で外したカバーを取り付けます。カバーのツメをパソコン本体のツメ穴に合わせてください。



重 要

- メモリが正しく取り付けられていないと、電源を入れたときに「拡張メモリエラー」というメッセージや英語のメッセージが表示されたり、画面に何も表示されないことがあります。その場合は主電源スイッチで電源を切り、メモリを取り付け直してください。

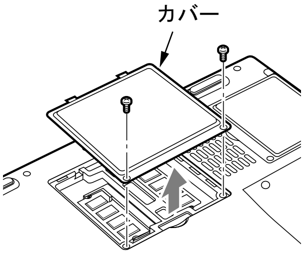
■ メモリを取り外す

1 パソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外します（→『取扱説明書』）。

2 液晶ディスプレイを閉じ、パソコン本体を裏返します。

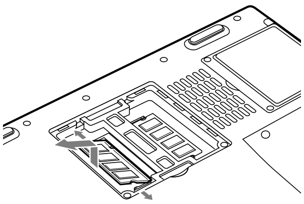
3 カバーを取り外します。

パソコン本体下面のネジを外し、カバーを開きます。



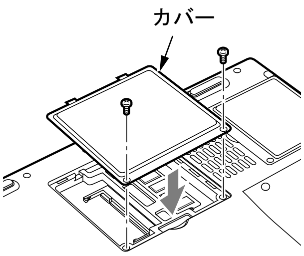
4 メモリを取り外します。

メモリを押さえている両側のツメを左右に開き、スロットから取り外します。



5 カバーを取り付け、ネジで固定します。

手順 3 で外したカバーを取り付けます。カバーのツメをパソコン本体のツメ穴に合わせてください。



POINT

- メモリを交換する場合は、手順 4 の後メモリを取り付けてください。
  「メモリを取り付ける」の手順 4（→ P.43）

5　マルチベイユニットについて

POINT

- 本パソコンのマルチベイに搭載できるユニットについては、「ハードウェア」－「使用できる周辺機器」（→ P.28）をご覧ください。

取り扱い上の注意

故障を防ぐため、マルチベイユニットをお使いになる場合は、次の点に注意してください。

- 内蔵 CD-ROM ドライブユニット、内蔵 CD-R/RW ドライブユニット、内蔵 DVD-ROM&CD-R/RW ドライブユニット、内蔵スーパーディスクドライブユニットは、ディスクが高速に回転する非常にデリケートな装置です。ディスクにアクセスしている状態で、パソコン本体を持ち運んだり、衝撃や振動を与えたりしないでください。ユニットが破損したりデータが壊れるおそれがあります。
- 内蔵スーパーディスクドライブユニットの取り扱い方によっては、ディスク内のデータが壊れるおそれがあります。重要なデータは必ずバックアップをとってください。
- 極端に高温、低温の場所、温度変化の激しい場所での保管は避けてください。
- 直射日光のあたる場所や発熱器具のそばには近づけないようにしてください。
- 衝撃や振動の加わる場所での保管は避けてください。
- 湿気やほこりの多い場所での使用は避けてください。
- 内部に液体や金属など異物が入った状態で使用しないでください。もし、何か異物が入ったときは、ご購入元または「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」へご連絡ください。
- 汚れは、柔らかい布でから拭きするか、柔らかい布に水または水で薄めた中性洗剤を含ませて軽く拭いてください。ベンジンやシンナーなど揮発性のものは避けてください。
- 分解したり、解体したりしないでください。
- 磁石や強い磁界を発生する装置の近くでの使用や保管は避けてください。

マルチベイユニットを交換する

ここでは、ユニットの交換方法について説明します。

重 要

- 本パソコンをお使いになるときは、必ずマルチベイにユニットまたはマルチベイ用カバーを取り付けてください。何も取り付けない状態でお使いになると、故障の原因となります。
- ベイユニット取り外しレバーを起こすとロックが解除され、ユニットが使えなくなることがあります。ベイユニット取り外しレバーは、ユニットを取り外す場合のみ起こしてください。誤ってレバー操作をしてしまった場合は、いったんパソコン本体の電源を切り、ユニットを取り外してから再度取り付けてください。
- 電源が入っている場合は、増設用内蔵バッテリユニットを取り外す前に、内蔵バッテリの残量が十分にあることを確認してください。内蔵バッテリの残量が十分でない場合は、AC アダプタを取り付けてから行ってください。

■ Windows XP/2000 の場合

POINT

- タスクバーに「ハードウェアの安全な取り外し」または「ハードウェアの取り外しまたは取り出し」アイコンが表示される場合は手順 1 から、アイコンが表示されない場合は手順 4 から行ってください。
- 内蔵スーパーディスクドライブユニットを取り外す場合は、状態表示 LCD のフロッピーディスクアクセス表示が点灯していないことを確認してください。

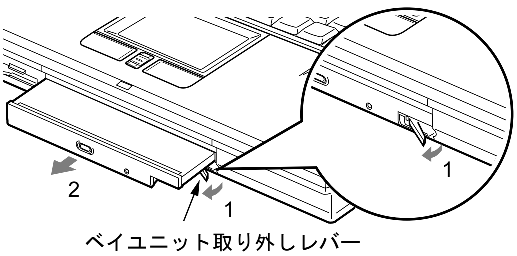
1 タスクバーの「ハードウェアの安全な取り外し」または「ハードウェアの取り外しまたは取り出し」アイコンをクリックします。

2 「XXX を安全に取り外します」または「XXX を停止します」をクリックします。

3 Windows 2000 の場合は「OK」をクリックします。

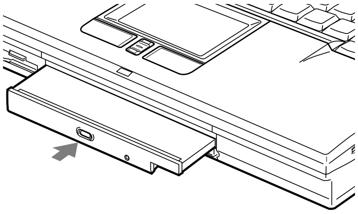
4 ユニットを取り外します。

ベイユニット取り外しレバーを起こし（1)、ユニットを取り外します（2)。



5 新しいユニットを取り付けます。

ユニットのコネクタを奥にして、突き当たるまで、しっかり押し込みます。



POINT

- ユニットの交換直後は「マイコンピュータ」ウィンドウなどからドライブの表示が消えることがあります。しばらくすると再表示され、使用することができます。

■ Windows NT/Me/98 の場合

⚠警告

感電

- ユニットを交換する場合は、パソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外してください。感電や故障の原因となります。

POINT

- スーパーディスクドライブユニットを取り外す場合は、状態表示 LCD のフロッピーディスクアクセス表示が点灯していないことを確認してください。

1 パソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外します（→『取扱説明書』）。

2 ユニットを取り外します。

Windows XP/2000 の場合の手順 4 を参照し、ユニットを取り外します（→ P.46）。

3 新しいユニットを取り付けます。

Windows XP/2000 の場合の手順 5 を参照し、ユニットを取り付けます（→ P.47）。

POINT

- Windows Me/98 モデルの場合は、添付の Softex BayManager をインストールすると、電源が入っているときでもユニットを交換することができます（→『Softex BayManager ユーザーズマニュアル』参照）。
- Windows NT モデルの場合は、添付の Portables Suite をインストールすると、電源が入っているときでもユニットを交換することができます（→「ソフトウェア」－「ソフトウェア一覧」）。

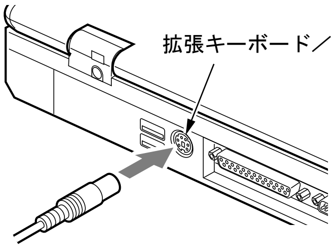
6 テンキーボードについて

接続について

1 パソコン本体の電源を切るか（→『取扱説明書』）、スタンバイさせます。

2 パソコン本体背面の拡張キーボード／マウスコネクタに、テンキーボードを接続します。

コネクタに刻印されている矢印が下側になるように接続してください。



POINT

- テンキーボードは、パソコン本体がテンキーモードの場合のみ使用できます。（→ P.65）
- 拡張キーボード／マウスコネクタには、101 キーボード、OADG キーボード、JIS キーボード、親指シフトキーボードも接続できます。
- 親指シフトキーボードを使うには、弊社製日本語入力システムの OAK または Japanist が必要です。
  OAK や Japanist は、OS によって対応するバージョンが異なります。お使いになる OS に合わせて用意してください。

7 プリンタについて

POINT

- USB 接続に対応したプリンタの場合、USB コネクタに接続することもできます（→ P.21）。

接続について

警告

感電

- プリンタの接続／取り外しを行う場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外してください。
感電の原因となります。

注意

故障

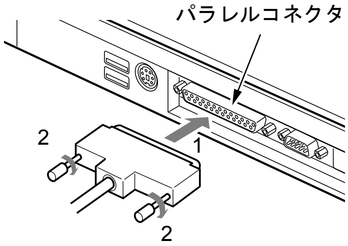
- ケーブル類の接続は、本書をよく読み、接続時に間違いがないようにしてください。
誤った接続状態で使用すると、パソコン本体およびプリンタが故障する原因となることがあります。

POINT

- プリンタの接続にはプリンタケーブルが必要です。プリンタケーブルは、プリンタに添付されていないことがあります。
また、添付されているものもコネクタの形状により接続できない場合もあります。そのような場合は、接続できるプリンタケーブルを別にお買い求めください。
- プリンタの接続方法は、プリンタによって異なります。詳しくは、プリンタのマニュアルをご覧ください。

1 パソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外します（→『取扱説明書』）。

2 パソコン本体背面のパラレルコネクタに、プリンタケーブルを接続します。
コネクタは、正面から見ると台形になっています。
コネクタの形を互いに合わせてしっかりと差し込み（1）、プリンタケーブルの左右のネジをしめて固定してください（2）。



3 プリンタに、プリンタケーブルおよび電源ケーブルを接続します。
接続方法は、プリンタのマニュアルをご覧ください。
プリンタに電源ケーブルがつながっている場合もあります。

4 プリンタの電源ケーブルのプラグをコンセントに差し込み、電源を入れます。

5 パソコン本体に AC アダプタを取り付け、電源を入れます。

6 初めて接続したプリンタの場合は、ドライバをインストールします。
プリンタのマニュアルをご覧になり、ドライバのインストールを行ってください。

8 外部ディスプレイについて

接続について

本パソコンには、プロジェクターや CRT ディスプレイなどの外部ディスプレイを接続することができます。
ここでは、パソコン本体背面の外部ディスプレイコネクタに、CRT ディスプレイを接続する場合について説明します。

⚠警告

感電

- 外部ディスプレイの接続／取り外しを行う場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外してください。
感電の原因となります。

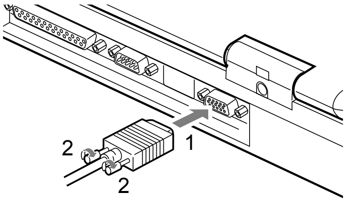
⚠注意

故障

- ケーブル類の接続は、本書をよく読み、接続時に間違いがないようにしてください。
誤った接続状態で使用すると、パソコン本体および外部ディスプレイが故障する原因となることがあります。

1 パソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外します（→『取扱説明書』）。

2 パソコン本体背面の外部ディスプレイコネクタに、ディスプレイケーブルを接続します。
コネクタは正面から見ると台形になっています。
コネクタの形を互いに合わせてしっかり差し込み（1）、ディスプレイケーブルの左右のネジで固定します（2）。



3 CRT ディスプレイにディスプレイケーブルを接続します。
接続方法は、CRT ディスプレイのマニュアルをご覧ください。

4 CRT ディスプレイの電源ケーブルを接続して、電源を入れます。

5 パソコン本体に AC アダプタを取り付け、電源を入れます。

POINT

- 外部ディスプレイを接続後パソコン本体の電源を入れると、次のようになることがあります。
  ・パソコン本体の液晶ディスプレイと外部ディスプレイで同時に表示される。
  ・「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウが表示される。
  この場合は、画面の指示に従って外部ディスプレイのドライバをインストールしてください。

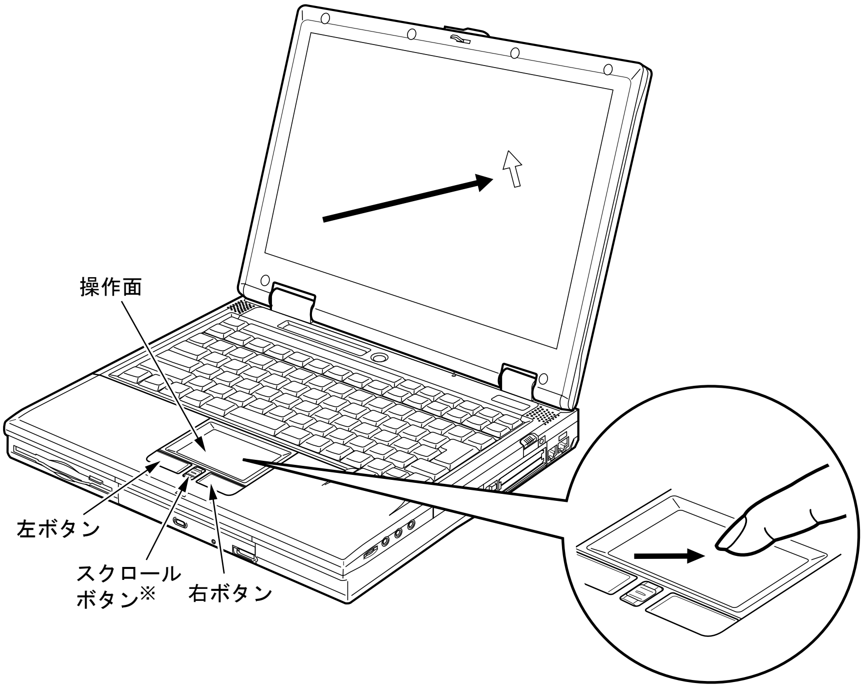
6 画面の表示を切り替えます。

【Fn】＋【F10】キーを押すと、液晶ディスプレイ→ CRT →同時表示→液晶ディスプレイ…の順で表示を切り替えることができます。また、OS の「画面のプロパティ」でも切り替えることができます（→「機能」－「表示装置の切り替え」）。

9 ポインティングデバイスについて

フラットポイントについて（PS/2 マウス添付モデルを除く）

フラットポイントは､指先の操作でマウスポインタを動かすことのできる便利なポインティングデバイスで、操作面とその手前にある 2 つのボタンで構成されています。
操作面は、マウスでいえばボール部分の機能を持ち、操作面を上下左右に指先でなぞることにより画面上のマウスポインタを移動させます。また、軽くたたく（タップする）ことにより、クリックやダブルクリック、ポイント、ドラッグなどの操作を行うこともできます。
左右のボタンは、それぞれマウスの左右のボタンに相当し、その機能はアプリケーションにより異なります。



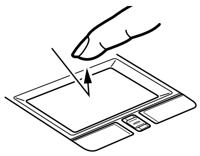
※：中央のスクロールボタンは、添付の「Alps Pointing-device Driver」をインストールすると使用することができます（→「ソフトウェア」－「ソフトウェア一覧」）。

POINT

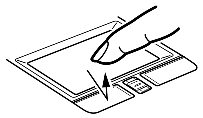
- フラットポイントは、その動作原理上、お使いになる方の指先の乾燥度などにより、ポインティング動作に若干の個人差が発生する場合があります。
- 操作面は、湿気などにより結露したり、汚れが付着したりすると、誤動作を起こすことがあります。この場合は、乾いた柔らかい布で水分や汚れを拭き取ってください。また、汚れがひどい場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布で汚れを拭き取ってください。
- お使いになるアプリケーションによっては、スクロールボタンによる画面のスクロールができない場合があります。
- マウスを使用する場合は、フラットポイントとの同時使用についてなどを、BIOS セットアップの「キーボード／マウス設定」で設定できます（→ P.88）。

■ フラットポイントの使い方

● クリック

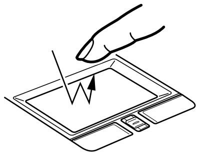


または

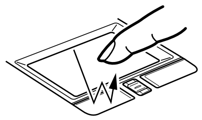


操作面を 1 回タップ（軽くたたく）するか、左ボタンをカチッと 1 回押して、すぐ離すことです。
また、右ボタンを 1 回カチッと押すことを「右クリック」といいます。

● ダブルクリック

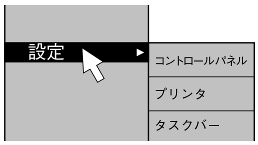


または



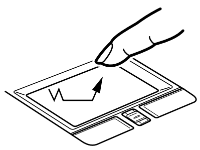
操作面を 2 回連続してタップするか、左ボタンをカチカチッと 2 回素早く押して、すぐ離すことです。ダブルクリックの速度は、「マウスのプロパティ」ウィンドウで調節できます。

● ポイント

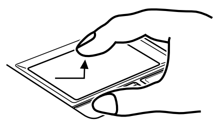


マウスポインタをメニューなどに合わせることです。マウスポインタを合わせたメニューの下に階層がある場合（メニューの右端に▶が表示されています）、そのメニューが表示されます。

● ドラッグ

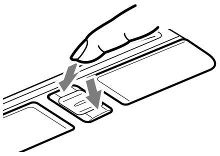


または



マウスポインタを任意の位置に移動し、操作面を素早く 2 回タップします。2 回目のタップのときに指を操作面上から離さないで、希望の位置まで操作面をなぞり、指を離します。または、マウスポインタを任意の位置に移動し、左ボタンを押しながら希望の位置まで操作面をなぞり、指を離します。

● スクロール



ウィンドウ内のスクロールする領域をクリックしてからスクロールボタンを前後方向に押すと、ウィンドウ内の表示がスクロールします。

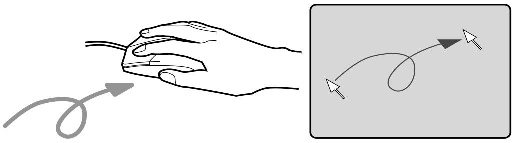
POINT

- 上記のボタンの操作は、右利き用に設定した場合の操作です。左右のボタンの役割やマウスポインタの速度などは、「マウスのプロパティ」ウィンドウで変更できます。
- 操作面をタップする場合は、指先で軽く、素早く行ってください。また、力を入れて行う必要はありません。
- フラットポイントは、操作面をなぞった方向に移動します。操作面の端まで移動した場合は、一度操作面から離し、適当な場所に指を降ろしてからもう一度なぞってください。
- 中央のスクロールボタンは、添付の「Alps Pointing-device Driver」をインストールすると使用することができます（→「ソフトウェア」－「ソフトウェア一覧」）。

マウスの使い方

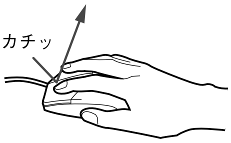
■ マウスの動かし方

マウスの左右のボタンに指がかかるように手をのせ､机の上などの平らな場所で滑らせるように動かします。マウスの動きに合わせて、画面上の矢印（これを「マウスポインタ」といいます）が同じように動きます。画面を見ながら、マウスを動かしてみてください。



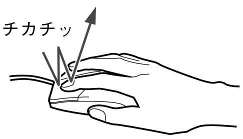
■ ボタンの操作

● クリック



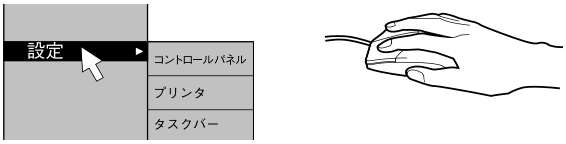
マウスの左ボタンを 1 回カチッと押します。
また、右ボタンをカチッと押すことを「右クリック」といいます。

● ダブルクリック



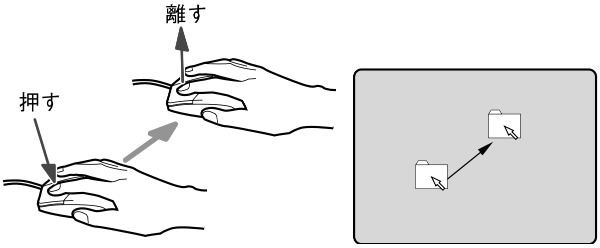
マウスの左ボタンを 2 回連続してカチカチッと押します。

● ポイント



マウスポインタをメニューなどに合わせます。マウスポインタを合わせたメニューの下に階層がある場合（メニューの右端に▶が表示されています）、そのメニューが表示されます。

● ドラッグ



マウスの左ボタンを押したままマウスを移動し、希望の位置でボタンを離します。

POINT

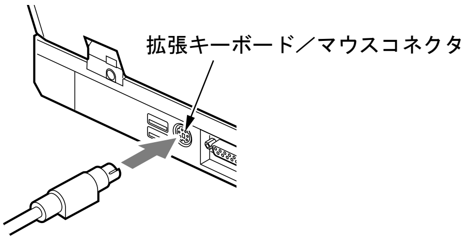
- 上記のボタンの操作は、右利き用に設定した場合の操作です。左右のボタンの役割やマウスポインタの速度などは、「マウスのプロパティ」ウィンドウで変更できます。

PS/2 マウスについて

1 パソコン本体の電源を切るか（→『取扱説明書』）、スタンバイさせます。

2 パソコン本体背面の拡張キーボード／マウスコネクタに、マウスを接続します。

コネクタに刻印されている矢印が下側になるように接続してください。



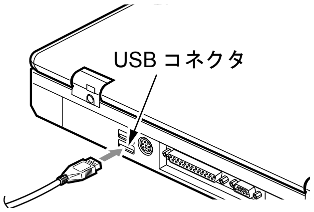
POINT

- フラットポイントが搭載されていないモデルでは、パソコン本体の電源を入れる前に、必ずマウスを接続してください。
- PS/2 マウスを接続すると、自動的にフラットポイントが使えなくなります。
  フラットポイントと併用する場合や、ホットプラグ機能については、BIOS セットアップの「キーボード／マウス設定」で設定します（→ P.88）。
- スクロール機能付きマウスを接続している場合は、パソコンの動作中にマウスを抜かないでください。
- スクロール機能付きマウスなどの多機能マウスを使用する場合は、専用ドライバのインストールが必要なことがあります。その場合には、標準 PS/2 マウスのドライバに変更してから、お使いになるマウスのドライバをインストールしてください。
- マウスは、定期的にクリーニングを行ってください（→ P.75）。

USB マウスについて（Windows NT ではサポート外）

1 パソコン本体背面の USB コネクタに、USB マウスを接続します。

コネクタの形を互いに合わせ、まっすぐに差し込んでください。



POINT

- USB マウスは、パソコンの電源が入った状態で取り付けおよび取り外しができます。
- USB マウスによっては、ドライバのインストールが必要なものがあります。お使いになる USB マウスのマニュアルをご覧になり、必要に応じてドライバをインストールしてください。
- USB マウスを接続してもフラットポイントは無効になりません。フラットポイントを無効にする場合は、次の「フラットポイントを無効にするには」をご覧ください。
- Windows XP/2000/Me/98 が起動していないときは、USB マウスはお使いになれません。

■ フラットポイントを無効にするには

本パソコンに USB マウスを接続すると、フラットポイントと USB マウスの両方が有効になります。USB マウスを接続したときにフラットポイントを無効にする場合は、次のように設定してください。

1 BIOS セットアップの「内蔵ポインティングデバイス」の項目を「手動」に設定します。

「BIOS」－「BIOS セットアップの操作のしかた」（→ P.83）

2 Windows が起動したら、【Fn】＋【F4】キーを押します。

キーを押すたびに、フラットポイントの有効と無効が切り替わります。

有効の場合は「Internal pointing device:Enable」、無効の場合は「Internal pointing device:Disable」などと画面に表示されます。

重要

- フラットポイントを無効にする場合は、必ずマウスを接続してください。

POINT

- 【Fn】＋【F4】キーを押してフラットポイントを無効にしても、本パソコンの再起動後およびレジューム後は、フラットポイントが有効になります。フラットポイントを無効にする場合は、もう一度【Fn】＋【F4】キーを押して切り替えてください。
- Windows XP モデルの場合、IndicatorUtility をアンインストールすると、手順2で表示されるメッセージは画面に表示されません。
- Windows 2000 の「電源オプションのプロパティ」、または Windows Me/98 の「電源の管理のプロパティ」に「BATTERYAID（2/2）」タブが表示されていない場合は、手順 2 で表示されるメッセージは画面に表示されません。
- BIOS セットアップの「内蔵ポインティングデバイス」（→ P.89）の項目を「常に使用しない」に設定すると、フラットポイントは常に無効になります。

ワイヤレスマウスについて（ワイヤレスマウス添付モデルのみ）

■ 取り扱い上の注意

故障を防ぐため、ワイヤレスマウスを使用するときは、次の点に注意してください。

- 電池を取り付ける場合は、プラス（＋）とマイナス（－）の向きを確認して、正しく入れてください。
- 消耗した電池と新しい電池を混ぜたり、種類の異なる電池を混ぜて使用しないでください。
- ワイヤレスマウスを長期間使用しない場合は、電池の液漏れなどによるトラブルを防ぐため、電池を取り出してください。万一液漏れしたときは、水に浸した布を固く絞って金具、周囲を清掃し、その後、乾いた布で水分をよく拭き取ってください。
- 電池から漏れた液が体についたときは水でよく洗い流してください。また目や口に入ったときは、よく洗い流した後、直ちに医師の診察を受けてください。
- 電池ボックスの端子をショートさせないでください。
- 電池を水や火の中に入れたり、分解しないでください。
- 電池を充電しないでください。
- 電池に直接ハンダ付けしないでください。
- 極端な温度条件下で保管しないでください。
- 強い衝撃を与えないでください。
- 電池を廃棄するときは、各自治体の指示に従ってください。

■ お使いになる前に

□ 電池の取り付けについて

「電池を交換する」（→ P.62）をご覧になり、添付の単 4 アルカリ乾電池 2 本を取り付けてください。

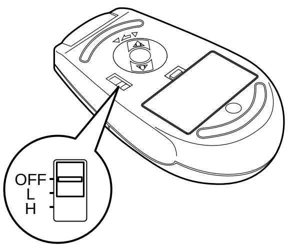
⚠ 警告

感 電

- **指定された電池以外は使用しないでください。**
  機器の破損・火災・感電の原因となります。

□ スイッチについて

ワイヤレスマウスの赤外線での送信は、スイッチにより強弱を切り替えることができます。使用環境や用途に合わせて切り替えてください。H はハイパワーモード、L はローパワーモードを指します。また、OFF にすれば電池の消耗を防ぎます。

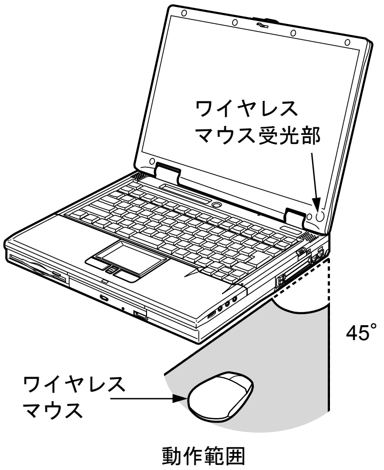


□ 使用方法について

ワイヤレスマウスは、マウスの操作を赤外線でパソコン本体に送信します。
ワイヤレスマウスを使用する場合は、ワイヤレスマウスをパソコン本体のワイヤレスマウス受光部に向けて操作してください。操作方法は、通常のマウスと同様です。
「ハードウェア」－「マウスの使い方」（→ P.55）
距離は、ワイヤレスマウス受光部からHで60cm以内、Lで40cm以内でのご使用をお勧めします。

POINT

- ワイヤレスマウス通信中は、ワイヤレスマウスを、パソコン本体の赤外線通信ポートに向けて操作しないでください。赤外線通信ポートが正常に動作しなくなります。
- ワイヤレスマウスのボタンが押されたままになると、電池が短時間で消耗します。
  ワイヤレスマウスの上に物を載せたり、ひっくり返して放置しないでください。
- パソコン本体の受光部に太陽光線や強い光などを直接当てないでください。誤動作や通信距離が短くなる原因となります。



■ 設定について

□ パソコン本体の設定

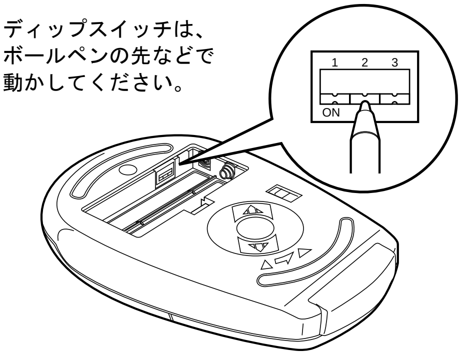
BIOS セットアップに、「ワイヤレスマウス」（→ P.89）という項目が設けられています。ワイヤレスマウスを使用する場合は、本項目を必ず「使用する」に設定してください（出荷時設定済）。

POINT

- 上記の「ワイヤレスマウス」の項目を「使用する」に設定した場合は、パソコン本体の拡張キーボード／マウスコネクタに接続した PS/2 マウスは使用できません。また、「内蔵ポインティングデバイス」（→ P.89）の項目を「常に使用する」に設定してください（出荷時設定済）。

□ ワイヤレスマウスの ID 設定

複数のワイヤレスマウスを隣接して使用する場合は、混信を防ぐため、各ワイヤレスマウスに異なる ID を設定します。ID は、底面の電池カバーを開き、ディップスイッチで設定します。



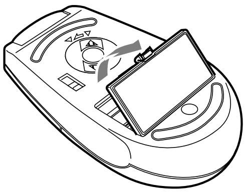
ID	ディップスイッチ		
	1	2	3
0	ON	ON	ON
1	OFF	ON	ON
2	ON	OFF	ON
3	OFF	OFF	ON
4	ON	ON	OFF
5	OFF	ON	OFF
6	ON	OFF	OFF
7	OFF	OFF	OFF

POINT

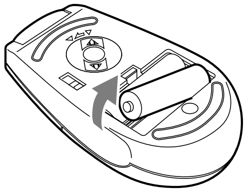
- ご購入時の ID は「7」に設定されています。
- ID を変更した場合は、パソコン本体の電源を一度切り、再度電源を入れるか、スタンバイ／レジューム動作をさせて、新しい ID を認識させてください。
- パソコン本体の ID の認識は、パソコン本体の電源を入れた後、またはレジューム後に初めて受信した ID になります。

■ 電池を交換する

1 電池カバーを取り外します。

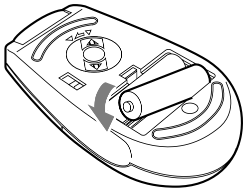


2 電池を取り出します。

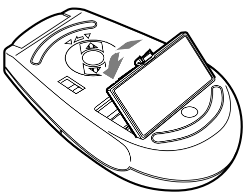


3 新しい電池を取り付けます。

電池のプラス（＋）とマイナス（－）の向きを確認して正しく入れてください。



4 電池カバーを取り付けます。

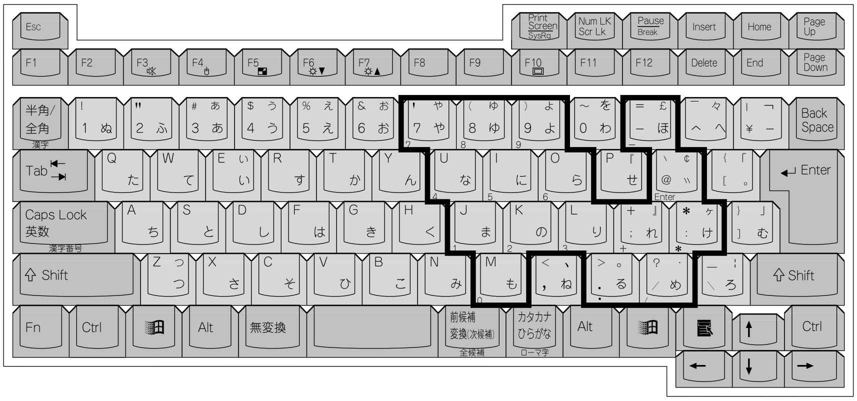


10 キーボードについて

OADG キーボード（OADG キーボード搭載モデルのみ）

OADG キーボードの配列は、次のようになっています。

：制御キー
：文字キー



■ 主なキーの名称と働き（OADG キーボード搭載モデルのみ）

【Esc】キー

現在の作業を取り消して、1 つ前に行った作業に戻るときなどに使います。

【F1】～【F12】キー

アプリケーションごとに機能が異なります。

【Fn】キー

本パソコン独自のキーです。次のような働きがあります。

【Fn】＋【F3】	スピーカーやヘッドホンの ON/OFF を切り替えます。 「機能」－「音量の設定」
【Fn】＋【F4】	BIOS セットアップの「内蔵ポインティングデバイス」（→ P.89）の項目を「手動」に設定したときに、内蔵ポインティングデバイスの有効と無効を切り替えます。 「ハードウェア」－「フラットポイントを無効にするには」（→ P.58）
【Fn】＋【F5】	全画面表示と通常表示を切り替えます。 「機能」－「全画面表示と通常表示の切り替え」
【Fn】＋【F6】	液晶ディスプレイのバックライトを暗くします。 「機能」－「液晶ディスプレイの明るさ設定」
【Fn】＋【F7】	液晶ディスプレイのバックライトを明るくします。 「機能」－「液晶ディスプレイの明るさ設定」

【Fn】＋【F10】　外部ディスプレイ接続時に、液晶ディスプレイのみの表示、外部ディスプレイのみの表示、液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示を切り替えます。
「機能」－「表示装置の切り替え」

【Space】キー
1 文字分の空白を入力するのに使います（キーボード手前中央にある、何も書かれていない横長のキーです）。

【↑】【↓】【←】【→】キー
カーソルを移動するときに使います。

【Enter】キー
入力した文字を確定するときなどに使います。
リターンキーまたは改行キーとも呼ばれます。

【Ctrl】キー
他のキーと組み合わせて使います。

【Shift】キー
他のキーと組み合わせて使います。

【Alt】キー
他のキーと組み合わせて使います。

【Caps Lock】キー
アルファベットを入力するときに使用します。【Shift】キーと一緒に押して、大文字／小文字を切り替えます。

【Num Lk】キー
テンキーモードにするときに押します。

【Scr Lk】キー
【Fn】キーと一緒に押します。

【Print Screen】キー
画面のハードコピーを取るときに押します。

【Pause】キー
画面の表示を一時的に止めるときなどに押します。

【Break】キー
アプリケーションごとに機能が異なります。

【Insert】キー
文字を入力するときに、「挿入モード」と「上書モード」を切り替えます。

【Delete】キー
文字を削除するときに押します。
また、【Ctrl】キーと【Alt】キーと一緒に押すと、本パソコンを再起動できます。

【Home】キー
カーソルを行の最初に移動するときに押します。
また、【Ctrl】キーと一緒に押すと、文章の最初に移動します。

【End】キー
カーソルを行の最後に移動するときに押します。
また、【Ctrl】キーと一緒に押すと、文章の最後に移動します。

【Page Up】キー
前の画面に切り替えるときに押します。

【Page Down】キー
次の画面に切り替えるときに押します。

【Back Space】キー

カーソルを左へ移動し、文字を削除するときに押します。

【SysRq】キー

アプリケーションでサポートしている場合、キーボードを再起動するときなどに使用します。【Alt】キーと一緒に押します。

【　】キー

「スタート」メニューを表示するときに押します。

【　】キー

選択した項目のショートカットメニューを表示するときに押します。また、右クリックと同じ役割をします。

■ テンキーモードについて

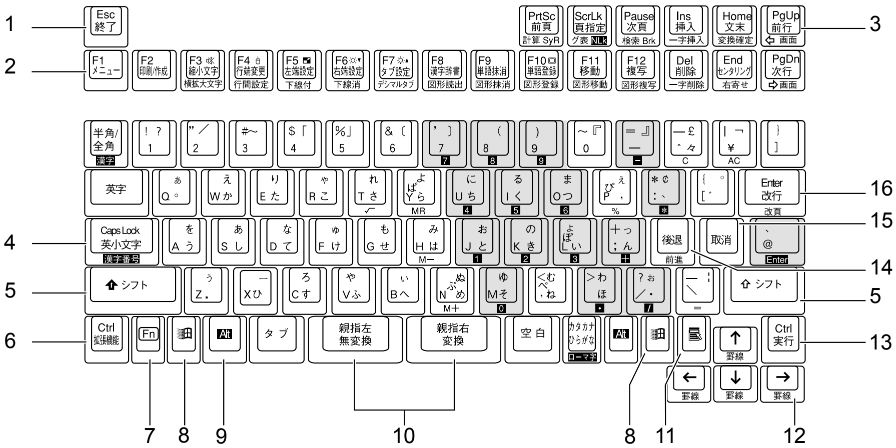
文字キーの一部を通常の状態と切り替えて、テンキー（数値入力を容易にするキー配列）として使えるようにするモードを「テンキーモード」といいます。テンキーモードの切り替えは、【Num Lk】キーで行い（状態表示 LCD に を表示）、上図の太線で囲まれたキーがテンキーとなります。これらのキーで入力できる文字は、各キーの前面に刻印されています。

POINT

- 別売のテンキーボードを接続している場合に【Num Lk】キーを押してテンキーモードにすると、テンキーボードのテンキーが有効となり、パソコン本体のキーボードのテンキー部は無効となります。

親指シフトキーボード（親指シフトキーボード搭載モデルのみ）

親指シフトキーボードの配列は、次のようになっています。



■ 主なキーの名称と働き

ここでは、各キーの一般的な名称と働きについて説明します。

1【Esc ／終了】キー

現在の作業を取り消して、1 つ前に行った作業に戻るときなどに使います。

2【F1】～【F12】キー

アプリケーションごとにいろいろな役割が割り当てられます。

3 各制御キー

カーソルを移動したり、文字を挿入／削除したりします。

・【PrtSc】キー

画面のハードコピーをとるときに押します。キーの前側面の【SyR】（システムリクエスト）は、アプリケーションがサポートしているとき、【Alt】キーと一緒に押すと、アクティブになっているウィンドウのハードコピーをとることができます。

・【ScrLk】キー

キーの前側面の【NLk】（ニューメリカルロック）は、テンキーモードに切り替えたいときに【シフト】キーと一緒に押します。

・【Pause】キー

画面の表示を一時的に止めるときに押します。キーの前側面の【Brk】は、アプリケーションごとに機能が異なります。

・【Ins】キー

文字を入力するときに、「挿入モード」と「上書モード」を切り替えます。

・【Home】キー

カーソルを行の最初に移動するときに押します。

また、【Ctrl】キーと一緒に押すと、文章の最初に移動します。

・【PgUp】キー

前の画面に切り替えるときに押します。

・【Del】キー
文字を削除するときに押します。
また、【Ctrl】キーと【Alt】キーを一緒に押すと、本パソコンを再起動できます。

・【End】キー
カーソルを行の最後に移動するときに押します。
また、【Ctrl】キーと一緒に押すと、文章の最後に移動します。

・【PgDn】キー
次の画面に切り替えるときに押します。

4【Caps Lock】キー

アルファベットを入力するときに使用します。【シフト】キーと一緒に押して、大文字／小文字を切り替えます。

5【シフト】キー

他のキーと組み合わせて使います。

6【Ctrl】／【拡張機能】キー

他のキーと組み合わせて使います。

7【Fn】キー

本パソコン独自のキーです。次のような働きがあります。

【Fn】＋【F3】	スピーカーやヘッドホンの ON/OFF を切り替えます。 「機能」－「音量の設定」
【Fn】＋【F4】	BIOS セットアップの「内蔵ポインティングデバイス」（→ P.89）の項目を「手動」に設定したときに、内蔵ポインティングデバイスの有効と無効を切り替えます。 「ハードウェア」－「フラットポイントを無効にするには」（→ P.58）
【Fn】＋【F5】	全画面表示と通常表示を切り替えます。 「機能」－「全画面表示と通常表示の切り替え」
【Fn】＋【F6】	液晶ディスプレイのバックライトを暗くします。 「機能」－「液晶ディスプレイの明るさ設定」
【Fn】＋【F7】	液晶ディスプレイのバックライトを明るくします。 「機能」－「液晶ディスプレイの明るさ設定」
【Fn】＋【F10】	外部ディスプレイ接続時に、液晶ディスプレイのみの表示、外部ディスプレイのみの表示、液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示を切り替えます。 「機能」－「表示装置の切り替え」

8【 】キー

「スタート」メニューを表示するときに押します。

9【Alt】キー

他のキーと組み合わせて使います。

10【親指左／無変換】、【親指右／変換】キー

ひらがなやカタカナ、そして漢字を書くときに使います。通常の親指シフトキーボードと違い、親指左／右と無変換／変換が同一のキーに割り当てられています。
また、英字入力モードのときに【親指左／無変換】キーを押すと、かな入力モードになり、【親指右／変換】キーを押すと空白が入力されます。

11【 】キー

選択した項目のショートカットメニューを表示するときに押します。
また、右クリックと同じ役割をします。

12【↑】【↓】【←】【→】キー

カーソルを移動します。

13【実行】キー

選んだメニューや機能を実行するときに使います。
このキーは、【Ctrl】キーとしては働きません。

14【後退】キー

カーソルを左へ移動し、カーソルを後退させます。

15【取消】キー

1 つ前の動作を取り消します。

16【Enter】／【改行】キー

入力した文字を確定するときなどに使います。
リターンキーとも呼ばれます。

■ テンキーモードについて

文字キーの一部を通常の状態と切り替えて、テンキー（数値入力を容易にするキー配列）として使えるようにするモードを「テンキーモード」といいます。テンキーモードの切り替えは、【シフト】＋【NLk】キーを押します（状態表示 LCD に 1 を表示）。これらのキーで入力できる文字は、各キーの前面に、ピンク色の四角の中にグレー色でプリントされています（上図の薄い色のついたキー）。

POINT

- 別売のテンキーボードを接続している場合に【シフト】＋【NLk】キーを押してテンキーモードにすると、テンキーボードのテンキーが有効となり、パソコン本体のキーボードのテンキー部は無効となります。

11 CD について

取り扱い上の注意

故障を防ぐため、CD を使用するときは、次の点に注意してください。

■ CD 媒体の注意事項

- ディスクは両面ともラベルを貼ったり、ボールペンや鉛筆などで字を書いたりしないでください。
- データ面をさわったり、傷をつけたりしないでください。
- 曲げたり、重いものを載せたりしないでください。
- 汚れたり、水滴がついたりしたときは、少し湿らせた布で中央から外側にむかって拭いた後、乾いた布で拭き取ってください。
- コーヒーなどの液体がかからないようにしてください。
- 高温や低温の場所に保管しないでください。
- 湿気やほこりの多い場所に保管しないでください。

■ ドライブの注意事項

- 円形以外（星型やカード型などの変形）の CD はお使いにならないでください。正常に読み出しや書き込みが行えなかったり、故障の原因となる場合があります。
- 一部のコピー防止機能が付いた音楽 CD については、ご利用いただけない場合があります。
- 本パソコンでは、次図のマークがついた CD をお使いになれます。マークのない CD はお使いにならないでください。故障の原因となることがあります。
  また、マークの種類によっては、アプリケーションが必要になる場合があります。
- CD 以外をお使いの場合は『DVD-ROM&CD-R/RW ドライブ、CD-R/RW ドライブをお使いの方へ』もあわせてご覧ください。

CD をセットする／取り出す

重 要

- CD に頻繁にアクセスする場合などは、AC アダプタを取り付けることをお勧めします。
- CDをセットする場合は、トレー中央の突起にCDの穴を合わせ、パチンと音がするようしっかりとはめ込んでください。きちんとはめ込まないと、CD がドライブ内部で外れて、トレーやドライブ内部、および CD を破損する原因となることがあります。
- セットすると自動で始まるディスクを使用しているときにパソコン本体をスタンバイさせると、レジューム時にディスクが二重に起動してしまい、誤動作の原因となります。二重に起動してしまった場合は、ディスクのアプリケーションを一度すべて終了し、ディスクをセットし直してください。
- CD はデータの読み出しなどの際、高速で回転するため、使用時に振動や風切音がすることがあります。

■ セットする

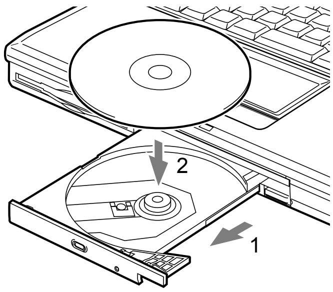
1 CD 取り出しボタンを押します。

トレーが少し飛び出します。

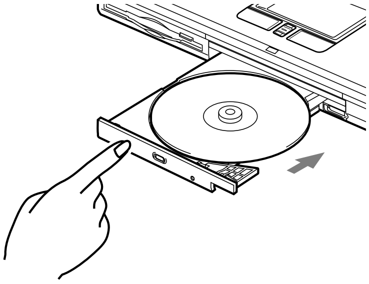


2 トレーを引き出し（1）、CD をセットします（2）。

トレーを手で支えながら、CD のレーベル面を上にして、トレー中央の突起にパチンと音がするようはめ込みます。



3 トレーを静かに押し込みます。



■ 取り出す

1 CD を利用しているアプリケーションを終了し、CD 取り出しボタンを押します。

トレーが少し飛び出します。

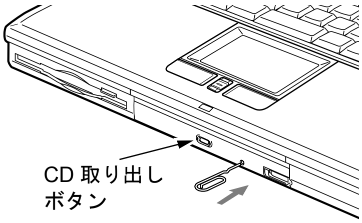
2 トレーを手で支えながら CD を取り出します。

トレー中央の突起を押さえながら、CD のふちを持ち上げてください。

3 トレーを静かに押し込みます。

POINT

- 本パソコンの CD ドライブユニットは、電子ロックのため、パソコン本体が動作状態の場合のみ CD のセット／取り出しが可能です。
- シールを貼った CD など、重心の偏った媒体を使用すると、ユニットに振動が発生し、十分な性能が出ない場合があります。
- トレーを最後まで押し込めない場合は、カシャッという音がするまでトレーを引き出し、再度押し込んでください。
- パソコン本体の電源が切れた状態では、トレーが閉まらないことがあります。この場合は、再度電源を入れて、トレーを閉めてください。
- 何らかの原因で、CD 取り出しボタンを押してもトレーが出ない場合は、「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックし、「マイコンピュータ」ウィンドウの「CD アイコン」を右クリックして「取り出し」をクリックしてください。
それでも出ない場合は、CD ドライブユニット前面の CD 取り出しボタンの横の穴にクリップの先などを差し込んで、トレーを引き出してください。



12 フロッピーディスクについて（フロッピーディスクドライブ搭載モデルのみ）

取り扱い上の注意

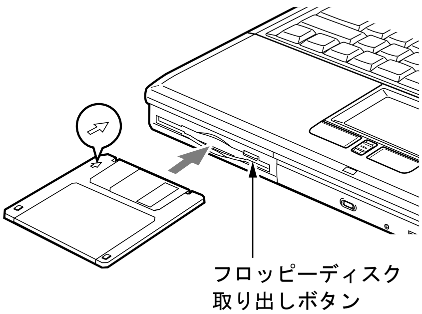
故障を防ぐため、フロッピーディスクを使用するときは、次の点に注意してください。

- コーヒーなどの液体がかからないようにしてください。
- シャッタを開いて中のディスクにさわらないでください。
- 曲げたり、重いものを載せたりしないでください。
- 磁石などの磁気を帯びたものを近づけないでください。
- 固い床などに落とさないでください。
- 高温や低温の場所に保管しないでください。
- 湿気やほこりの多い場所に保管しないでください。
- ラベルを何枚も重ねて貼らないでください（ドライブにつまる原因になります）。
- 結露や水滴がつかないようにしてください。
- 本パソコンにフロッピーディスクをセットしたまま持ち運ばないでください。

フロッピーディスクをセットする／取り出す

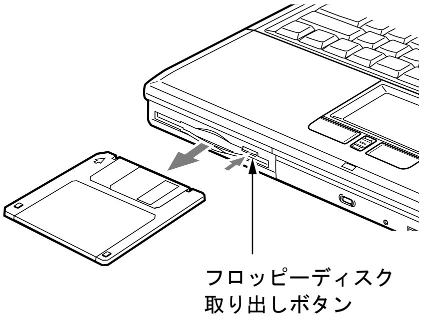
■ セットする

矢印のある面を上向きにして、フロッピーディスク取り出しボタンが飛び出すまで差し込みます。



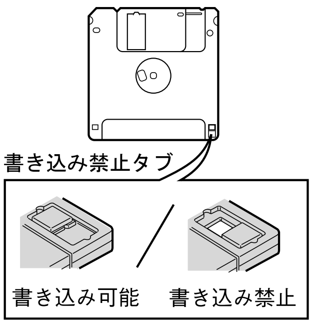
■ 取り出す

状態表示 LCD の が消えていることを確認して、フロッピーディスク取り出しボタンを押します。



POINT

- DOS/V フォーマット済みのフロッピーディスクを使用してください。その他のフロッピーディスクを使用すると、動作が保証されません。
  使用できるフロッピーディスクについては、「技術情報」－「本体仕様」（→ P.106）をご覧ください。
- 状態表示 LCD の が点灯中にフロッピーディスクを取り出すと、ディスク内のデータが壊れるおそれがあります。
- フロッピーディスクに保存してある情報を消したくないときや、追加して書き込みたくないときは、フロッピーディスクの書き込み禁止タブをスライドさせ、穴があいた状態（書き込み禁止の状態）にします。再び情報を書き込みたいときは、書き込み禁止タブをスライドさせ、穴が閉じた状態にします。



13 ハードウェアのお手入れ

パソコン本体のお手入れ

警告

感電

- 感電やけがの原因となるので、お手入れの前に、次の事項を必ず行ってください。
  - ・パソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外してください。
  - ・プリンタなど、周辺機器の電源を切り、パソコン本体から取り外してください。

パソコン本体の汚れは、乾いた柔らかい布で軽く拭き取ってください。
汚れがひどい場合は、水または水で薄めた中性洗剤を含ませた布を、固く絞って拭き取ってください。中性洗剤を使用して拭いた場合は、水に浸した布を固く絞って中性洗剤を拭き取ってください。また、拭き取りの際は、パソコン本体に水が入らないよう十分に注意してください。なお、シンナーやベンジンなど揮発性の強いものや、化学ぞうきんは絶対に使わないでください。

液晶ディスプレイのお手入れ

液晶ディスプレイの汚れは、乾いた柔らかい布かメガネ拭きで軽く拭き取ってください。

重 要

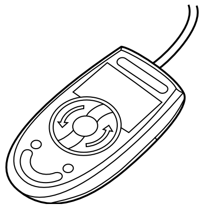
- 液晶ディスプレイの表面を固いものでこすったり、強く押しつけたりしないでください。液晶ディスプレイが破損するおそれがあります。

マウスのお手入れ（マウス添付モデルのみ）

表面の汚れは、柔らかい布でから拭きします。マウスのボールがスムーズに回転しないときは、ボールを取り外してクリーニングします。ボールのクリーニング方法は、次のとおりです。なお、お使いのマウスにより形状が異なります。

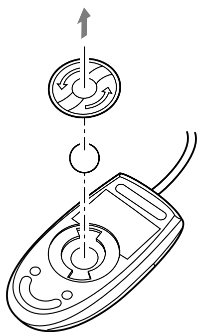
1　マウスの裏ブタを取り外します。

マウス底面にあるカバーを、矢印の方向に回して取り外します。



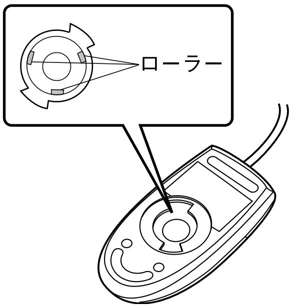
2　ボールを取り出して、水洗いします。

マウスをひっくり返し、ボールを取り出します。その後、水洗いして十分に乾燥させます。



3　マウス内部をクリーニングします。

マウス内部、ローラー、およびカバーを乾いた布でよく拭きます。



4　ボール、裏ブタを取り付けます。

フロッピーディスクドライブのお手入れ（フロッピーディスクドライブ搭載モデルのみ）

フロッピーディスクドライブは、長い間使用していると、ヘッド（データを読み書きする部品）が汚れてきます。ヘッドが汚れると、フロッピーディスクに記録したデータを正常に読み書きできなくなります。別売のクリーニングフロッピーを使用して、3ヶ月に 1 回程度の割合でクリーニングしてください。

■ 用意するもの

商品名：クリーニングフロッピィマイクロ
商品番号：0212116
（富士通コワーコ株式会社 お問い合わせ：03-3342-5375）

■ お手入れのしかた

□ Windows XP/2000/NT/Me の場合

1 クリーニングフロッピーをセットします。

2 コマンドプロンプトから､dir などのディスクにアクセスするコマンドを実行します。

例：次のように入力し、【Enter】キーを押します。

```
dir a:
```

3 状態表示 LCD の が消えているのを確認して、クリーニングフロッピーを取り出します。

□ Windows 98 の場合

1 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。

2 「名前」に次のように入力して【Enter】キーを押します。

```
c:¥fjuty¥clndsk 0
```

3 クリーニングフロッピーをセットして【Enter】キーを押します。

ヘッドクリーニングが始まり、「クリーニング中です。あと XX 秒」と表示されます。
「ヘッドクリーニングが終了しました。」とメッセージが表示されたら終了です。

4 状態表示 LCD の が消えているのを確認して、クリーニングフロッピーを取り出します。

第 3 章

セキュリティ

本パソコンは、他人による不正使用を防止するため、セキュリティボタン、スマートカードまたは指紋センサーなどのセキュリティ機能が使用できます。なお、使用できるセキュリティ機能は、お使いの機種によって異なります。

1　セキュリティについて

重要

- セキュリティ機能は完全な本人認識・照合を保障するものではありません。当社ではセキュリティ機能を使用されたこと、または使用できなかったことによって生じるいかなる損害に関しても、一切の責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

セキュリティボタンについて（セキュリティボタン搭載モデルのみ）

パソコン本体の起動時やレジューム時に、添付の「セキュリティボタン」で設定したパスワードを入力することにより、本パソコンが使用できるようになります。パソコン本体の電源を入れたときやレジューム時に状態表示 LCD のセキュリティ表示が点灯したらパスワードを入力してください。

POINT

- セキュリティボタンについては、『セキュリティボタン取扱説明書』をご覧ください。

スマートカードについて（スマートカード添付モデルのみ）

BIOS の起動時、Windows の起動時やアプリケーションの起動時に、パスワードなどのセキュリティ情報を登録したスマートカードをセットすることにより、本パソコンが使用できるようになります。

POINT

- スマートカードについては、『スマートカードホルダー取扱説明書』をご覧ください。
  Windows XP モデルの場合は、添付のマニュアルは参考としてご覧ください。
- スマートカードホルダーは、PC カードスロットにセットします。
  「ハードウェア」－「PC カードをセットする」（→ P.38）
- スマートカードホルダーをセットしてからパソコン本体の電源を入れてください。またスマートカードホルダーは、パソコンを使用中は絶対に取り外さないでください。

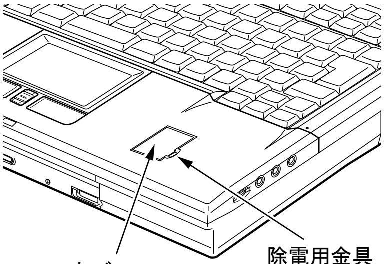
指紋センサーについて（指紋センサー搭載モデルのみ）

Windows の起動時やレジューム時に、指紋を登録した指を指紋センサーに載せることにより、本パソコンが使用できるようになります。
ここでは、指紋センサーに指を載せる方法を説明します。

POINT

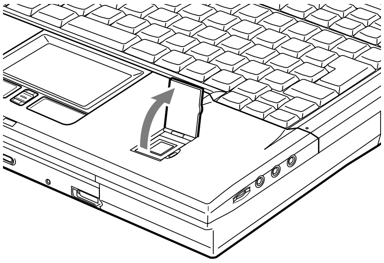
- 指紋の登録方法や認証方法などは、『指紋センサー取扱説明書』をご覧ください。

1 カバー右側の除電用金具に触れて静電気を除去します。



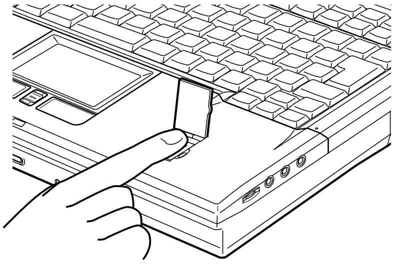
2 指紋センサーのカバーを開きます。

指紋センサーのくぼみに指をかけ、カバーを開きます。



3 指紋センサーの上に指を載せます。

カバーを開いたら指を真下に下ろし、指のはら（指紋の中心部）をセンサーにつけます。



4 指紋センサーのカバーを閉じます。

カバーがしっかり閉じていることを確認してください。

POINT

- 指紋センサー使用後は必ずカバーを閉めてください。カバーを開いたまま放置したり、カバーを取り外したりすると、故障の原因となることがあります。
- 指紋センサーのカバーを引っ張らないでください。故障の原因となることがあります。
- 指紋センサーに指を載せるときは、必ず指のはら（指紋の中心部）を載せてください。
- センサー部分をひっかいたり、先のとがったもので押したりしないでください。センサーに傷がつき、故障の原因となることがあります。
- センサー表面が温かくなることがありますが、故障ではありません。
- センサーをクリーニングする際は、除電用金具に触れてからカバーを開き、乾いた柔らかい布でセンサー表面の汚れを軽く拭き取ってください。

Memo

第 4 章

BIOS

BIOSセットアップというプログラムについて説明しています。また、本パソコンのデータを守るためにパスワードを設定する方法についても説明しています。なお、BIOS セットアップの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

1 BIOS セットアップとは

BIOS セットアップとは、本パソコンの環境を設定するためのプログラムです。本パソコンご購入時は、すでに最適なハードウェア環境に設定されています。通常の使用状態では、BIOS セットアップで環境を設定（変更）する必要はありません。

BIOS セットアップの設定は、次の場合などに行います。

- 特定の人だけが本パソコンを使用できるように、パスワード（暗証番号）を設定するとき
- 起動時の自己診断テスト（POST）で BIOS セットアップに関するエラーメッセージが表示されたとき

重 要

- BIOS セットアップの設定項目の詳細については、BIOS セットアップ画面（→ P.83）の「項目ヘルプ」をご覧ください。
- OS により、設定する値が異なる項目があります（→『取扱説明書』）。

POINT

- BIOS セットアップで設定した内容は、パソコン本体内部の CMOS RAM と呼ばれるメモリに記憶されます。この CMOS RAM は、バックアップ用バッテリによって記憶した内容を保存しています。BIOS セットアップを正しく行っても、パソコン本体の起動時に「システム CMOS のチェックサムが正しくありません。標準設定値が設定されました。」というメッセージが表示される場合は、バックアップ用バッテリが消耗して、CMOS RAM に設定内容が保存されていないことが考えられますので、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」にご連絡ください。
- 起動時の自己診断テスト中は不用意に電源を切らないでください。
  本パソコンは、自己診断テスト中の異常終了の回数を数えており、3 回続いた場合は 4 回目の起動時に「前回の起動が正常に完了しませんでした。」というメッセージを表示します。
- 起動時の自己診断テスト（POST）
  本パソコンの電源を入れたときや再起動したときに、ハードウェアの動作に異常がないかどうか、どのような周辺機器が接続されているかなどを自動的に調べます。これを「起動時の自己診断テスト」（POST : Power On Self Test）といいます。

2 BIOS セットアップの操作のしかた

BIOS セットアップを起動する

BIOS セットアップでは、すべての操作をキーボードで行います。

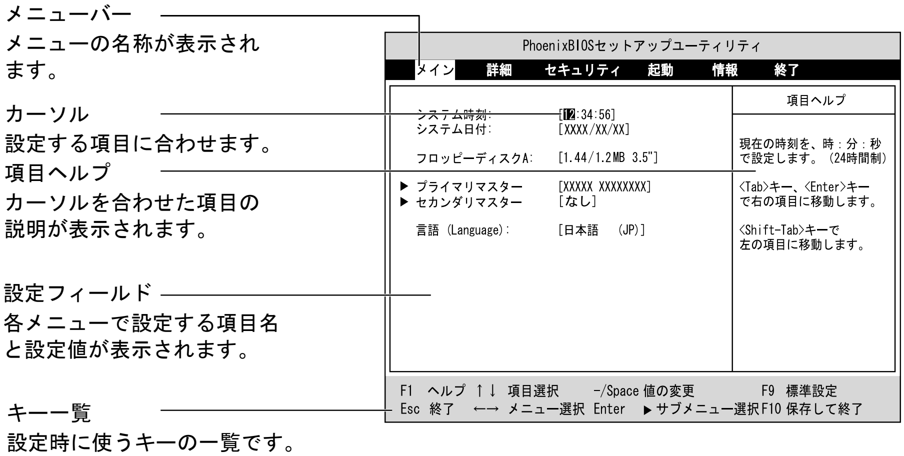
1 作業を終了してデータを保存します。

2 状態表示 LCD に や が点灯していないことを確認し、本パソコンを再起動します。

3 「FUJITSU」のロゴマークが表示され、画面の下に「＜ ESC ＞キー : 自己診断画面 / ＜ F12 ＞キー : 起動メニュー / ＜ F2 ＞キー : BIOS セットアップ」と表示されている間に、【F2】キーを押してください。

BIOS セットアップ画面が表示されます。

BIOS セットアップ画面の各部の名称と役割は、次のとおりです。



POINT

- BIOS セットアップの画面ではなく OS が起動してしまった場合は、起動が完了するのを待って、もう一度手順 2 からやり直してください。
- 手順 3 で【F12】キーを押すと、「起動メニュー」が表示され、起動するドライブを選択することができます。また、〈BIOS セットアップを起動〉を選択すると、BIOS セットアップの「メイン」メニューが表示されます。

起動メニュー
1． +フロッピーディスクドライブ 2． +ハードディスクドライブ 3． CD-ROMドライブ 〈BIOSセットアップを起動〉

設定を変更する

ここでは一般的な操作方法を説明します。

1 【←】キーまたは【→】キーでカーソルを移動し、設定したいメニューを選びます。

選択したメニュー画面が表示されます。

2 【↓】キーまたは【↑】キーでカーソルを移動し、設定したい項目を選びます。

3 【Space】キーまたは【－】キーを押して、選択している項目の設定値を変更します。

続けて他の設定項目を変更する場合は、手順 1 ～ 3 を繰り返してください。

4 設定を保存して終了します。

「BIOS」－「BIOS セットアップを終了する」（→ P.86）

重要

- BIOS セットアップの設定は正確に行ってください。
  設定を間違えると、本パソコンが起動できなくなったり、正常に動作しなくなることがあります。
  このような場合には、変更した設定値を元に戻すか、ご購入時の設定に戻して本パソコンを起動し直してください。

POINT

- 設定内容を変更前の値に戻す方法は、「BIOS」－「終了メニュー」（→ P.94）をご覧ください。
- 設定内容をご購入時の設定値に戻す方法は、「ご購入時の設定に戻す」（→『取扱説明書』）をご覧ください。
- 項目名に「▶」が付いている項目にはサブメニューがあります。
  項目名にカーソルを移動して【Enter】キーを押すと、サブメニューが表示されます。元のメニュー画面に戻るときは【Esc】キーを押します。

各キーの役割

設定時に使用するキーの役割は、以下のとおりです。

【↑】キー、【↓】キー	設定する項目にカーソルを移動します。
【Page Up】キー	複数ページにわたるメニュー画面で、前ページに移動します。
【Page Down】キー	複数ページにわたるメニュー画面で、次ページに移動します。
【Home】キー	メニュー内の最初の項目にカーソルを移動します。
【End】キー	メニュー内の最後の項目にカーソルを移動します。
【F5】キー、【－】キー	各項目の設定を 1 つ前の設定値に変更します。
【F6】キー、【Space】キー	各項目の設定を次の設定値に変更します。
【←】キー、【→】キー	メニューを切り替えます。
【Enter】キー	▶印が付いた項目のサブメニュー画面を表示します。また、「終了」メニューなどでは、各項目の処理を行います。 設定する項目で押すと、設定値が一覧で表示されます。
【F9】キー	標準設定値を読み込みます。
【F10】キー	現在の設定値を保存して、BIOSセットアップを終了します。
【Esc】キー、 【Alt】＋【X】キー	「終了」メニューを表示します。また、サブメニュー画面でこれらのキーを押すと、1 つ上のメニュー画面に戻ります。
【F1】キー、 【Alt】＋【H】キー	一般ヘルプ画面を表示します。同じキーを再度押すか、【Esc】キーを押せば閉じます。

POINT

- ここでいう【－】キーは  のことです。

BIOS セットアップを終了する

変更した設定を有効にするためには、設定内容を CMOS RAM に保存しておく必要があります。以下の操作を行って、設定内容を保存してから BIOS セットアップを終了してください。

1 【Esc】キーを押します。

「終了」メニューが表示されます。

2 【↑】キーまたは【↓】キーを押して「変更を保存して終了する」を選択し、【Enter】キーを押します。

次のメッセージが表示されます。

セットアップ確認
変更した内容を保存して終了しますか？ [はい]　　　[いいえ]

3 【←】キーまたは【→】キーで「はい」を選択し、【Enter】キーを押します。

すべての設定値が保存された後、BIOS セットアップが終了し、本パソコンが再起動します。

POINT

- サブメニューを表示している場合は、「終了」メニューが表示されるまで、【Esc】キーを 2 ～ 3 回押してください。
- 設定を変更しないで終了する場合は、「終了」メニューで「変更を保存せずに終了する」を選択して終了してください（→ P.94）。
- いったん設定内容を保存した後、続けて他の項目を設定する場合は、「終了」メニューで「変更を保存する」を選択してください（→ P.94）。
  1. 「終了」メニューの「変更を保存する」を選択し、【Enter】キーを押します。
     「変更した内容を保存しますか？」というメッセージが表示されます。
  2. 【←】キーまたは【→】キーで「はい」を選択し、【Enter】キーを押します。

3 メニュー詳細

メインメニュー

「メイン」メニューでは、日時の設定と、ドライブやメモリの機能などの設定を行います。

□ システム時刻

□ システム日付

□ フロッピーディスク A

□ プライマリマスター

□ セカンダリマスター

POINT

- 「終了」メニューの「標準設定値を読み込む」（→ P.94）を実行した直後は、「プライマリマスター」、「セカンダリマスター」の項目の自動設定が行われていません。BIOS セットアップを再起動すると、各項目が自動設定されます。

- タイプ

POINT

- 通常は「自動」に設定してください。

- シリンダ数
- ヘッド数
- セクタ数

POINT

- シリンダ数、ヘッド数、セクタ数は、「タイプ」が「ハードディスク」の場合のみ設定できます。
- シリンダ数、ヘッド数、セクタ数を設定する場合は正しく行ってください。間違って設定すると、正常に動作しなくなります。
- 「タイプ」を「自動」に設定した場合は、シリンダ数、ヘッド数、セクタ数は表示されません。

- 合計セクタ
- 最大容量
- マルチセクタ転送
- LBA モード制御
- 転送モード
- Ultra DMA モード

□ 言語（Language）

POINT

- 設定と同時に画面表示が切り替わり、次に設定を変更するまで同じ言語で表示されます。

詳細メニュー

「詳細」メニューでは、周辺機器の設定などを行います。

□ シリアル／パラレルポート設定

POINT

- I/O ポートアドレス、割り込み番号、DMA チャネルは、複数のデバイスに同じ設定値を割り当てないように注意してください。同じ設定値を割り当てると、項目名の左に＊が表示されます。

- シリアルポート
  - ・I/O アドレス
  - ・割り込み番号
- 赤外線通信ポート
  - ・モード

POINT

- 「FIR」に設定する場合は、高速モードに対応した赤外線通信用ソフトが必要です。また、FIR 用の「I/O アドレス」と「DMA チャネル」も設定してください。

  - ・I/O アドレス
  - ・割り込み番号
  - ・I/O アドレス
  - ・DMA チャネル
- パラレルポート
  - ・モード
  - ・I/O アドレス
  - ・割り込み番号
  - ・DMA チャネル

POINT

- 「DMA　チャネル」は、「モード」の項目を「ECP」に設定したときに表示されます。通常「DMA チャネル」は「DMA 1」に設定してください。「DMA 3」は、標準設定値では赤外線通信ポートの FIR 用に割り当てられています。

□ キーボード／マウス設定

- 起動時の Numlock 設定
- ホットプラグ

POINT

- PS/2 規格のマウスやキーボードのみ有効です。
- マウスやキーボードによっては、ホットプラグに対応していない場合があります。動作中のパソコン本体にマウスやキーボードを接続しても認識されない場合は、一度取り外し、しばらくしてからもう一度接続してください。それでも認識されない場合は、パソコン本体の電源を切るか、パソコン本体をスタンバイにして接続してください。
- ホットプラグ機能を有効にした状態で、お使いのキーボードやマウスの動作に異常が見られる場合は、ホットプラグ機能を無効にしてください。
- 拡張キーボード／マウスコネクタに、『バーコードリーダ（FMV-BCR101）』、『バーコードタッチリーダ（FMV-BCR201）』、『磁気カードリーダ（FMV-MCR101）』などの入力装置を接続する場合は、「使用しない」に設定してください。
- 「内蔵ポインティングデバイス」の項目を「手動」または「常に使用しない」に設定した場合は、ホットプラグ機能は使用できません。

- 内蔵ポインティングデバイス

POINT

- Microsoft 社製の IntelliMouse™ などのホイール機能付き PS/2 マウスは、設定が「自動」または「常に使用しない」の場合のみ使用できます。

- ワイヤレスマウス（ワイヤレスマウス添付モデルのみ）

POINT

- 「使用する」に設定した場合は、PS/2 規格のマウスを接続しても使用できません。
- 「使用する」に設定した場合は、前項の「内蔵ポインティングデバイス」の設定を「常に使用する」にしてください（出荷時設定済）。

- レジューム時の初期化

□ディスプレイ設定

- ディスプレイ

POINT

- 本パソコンの起動後は、キーボード操作や「画面のプロパティ」で画面表示を切り替えることができます（→「機能」－「表示装置の切り替え」）。

- 全体表示

POINT

- 本パソコンの起動後は、【Fn】+【F5】キーを押すことで表示の切り替えを行うことができます。

□その他の内蔵デバイス設定

- IDE コントローラ
- 内蔵モデム（モデム搭載モデルのみ）
- 内蔵 LAN デバイス（有線 LAN 搭載モデルのみ）
- 無線 LAN デバイス（ワイヤレス LAN 搭載モデルのみ）
- 指紋センサー（指紋センサー搭載モデルのみ）

□ CPU 設定

- SpeedStep（TM）テクノロジ
  - ・バッテリ運用時
  - ・AC 運用時

□ USB 設定

- レガシー USB サポート

□ 各種設定

- 電源ボタン
- LAN によるウェイクアップ

□ イベントログ設定

- イベントログ領域の状態
- イベントログ内容の状態
- イベントログの表示

POINT

- イベントログメッセージで、「POST エラー : XXXXXXXX XXXXXXXX」というメッセージが表示された場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」にご連絡ください。それ以外のメッセージは、本パソコンの使用には特に問題のないメッセージです。

- イベントログ
  - ・システム起動
- イベントログの消去
- イベントログのマーク

セキュリティメニュー

「セキュリティ」メニューでは、本パソコンを特定の人だけが使用できるよう設定を行います。

□ 管理者用パスワード

□ ユーザー用パスワード

□ 管理者用パスワード設定

POINT

- 以下の項目は、管理者用パスワードが設定されている場合に設定できます。
  - ・ユーザー用パスワード設定
  - ・ユーザー用パスワード文字数
  - ・起動時のパスワード
  - ・レジューム時のキーボードロック
  - ・取り外し可能なディスクからの起動
  - ・スマートカードによるロック
  - ・ハードディスクセキュリティ
  - ・所有者情報

□ ユーザー用パスワード設定

POINT

- 管理者用パスワードとユーザー用パスワードの両方が設定されている状態で、ユーザー用パスワードで BIOS セットアップに入ると、設定値がグレーで表示される項目があります。グレー表示される項目は、ユーザー用パスワードでは変更できません。

□ ユーザー用パスワード文字数

POINT

- 本項目はユーザー用パスワードでBIOSセットアップに入った場合のみ有効です。管理者用のパスワードでBIOSセットアップに入った場合は、最低文字数より少ない文字をユーザー用パスワードとして設定することができます。

□ 起動時のパスワード

□ レジューム時のキーボードロック

POINT

- USB 規格の周辺機器は「レジューム時のキーボードロック」によるセキュリティの対象外になります。そのため、USB マウスなどの USB 機器はパスワードを入力しなくても使用できます。

□ 取り外し可能なディスクからの起動

□ スマートカードによるロック（スマートカード添付モデルのみ）

POINT

- 本項目は、スマートカードホルダーをセットしている場合のみ表示されます。
- 本項目を「使用する」に設定すると、次の項目が設定できなくなります。
  - ・管理者用パスワード設定
  - ・ユーザー用パスワード設定
  - ・ユーザー用パスワード文字数

□ ハードディスクセキュリティ

- ● プライマリマスター用パスワード
- ● セカンダリマスター用パスワード
- ● プライマリマスター用パスワード設定
- ● セカンダリマスター用パスワード設定

重 要

- 本パソコンでは「セカンダリマスター」は使用できません。
- 本パソコンでセキュリティを設定したハードディスクは、他のパソコンに接続しても使用できません。使用する場合は、本パソコンで設定したハードディスクセキュリティのパスワードの設定が必要となります。

□ 所有者情報

POINT

- 管理者用パスワードが設定されていない場合は、「所有者情報」の各項目は表示されますが、選択できません。

- ● 所有者情報
- ● 所有者情報設定
- ● 文字色
- ● 背景色

□ レジューム時のセキュリティボタン（セキュリティボタン搭載モデルのみ）

起動メニュー

「起動」メニューでは、本パソコンの起動時の動作についての設定を行います。

□ 高速起動

□ 起動時の自己診断画面

□ ネットワークサーバからの起動

□ 起動デバイスの優先順位

- フロッピーディスクドライブ
- ハードディスクドライブ
- CD-ROM ドライブ
- Realtek Boot Agent / Intel(R) Boot Agent Version 4.0.12

POINT

- 利用可能な起動デバイスが、起動時の検索順序の高い順に表示されます。ただし、「Realtek Boot Agent」または「Intel(R) Boot Agent Version 4.0.12」は、「ネットワークサーバからの起動」が「使用する」に設定されている場合に表示されます。なお、「ネットワークサーバからの起動」を「使用する」に設定した場合、「Realtek Boot Agent」または「Intel(R) Boot Agent Version 4.0.12」の優先順位は、再起動後に設定可能となります。
- CD から起動するには起動可能な OS の入った CD が必要となります。
  再起動前に本パソコンに CD をセットしてください。

情報メニュー

「情報」メニューには、BIOS セットアップやパソコン本体についての情報が表示されます。設定を変更することはできません。

□ BIOS 版数

□ BIOS 日付

□ BIOS 領域

□ CPU タイプ

□ CPU 速度

□ L1 キャッシュ

□ L2 キャッシュ

□全メモリ容量

- メモリスロット 1（標準メモリスロット）
- メモリスロット 2（増設メモリスロット）

POINT

- メモリを取り付けていないときは、「未使用」と表示されます。

終了メニュー

「終了」メニューでは、設定値の保存や読み込み、BIOS セットアップの終了などを行います。

□変更を保存して終了する

設定した内容を CMOS RAM に保存して BIOS セットアップを終了します。

□変更を保存せずに終了する

設定した内容を CMOS RAM に保存しないで BIOS セットアップを終了します。

□標準設定値を読み込む

すべての項目を標準設定値にします。

□変更前の値を読み込む

すべての項目について、CMOS RAM から変更前の値を読み込み、変更を取り消します。

□変更を保存する

変更した内容をカスタム設定値として保存します。

POINT

- お使いのモデルによっては、「標準設定値を読み込む」を実行しても、一部の項目がご購入時の設定に戻りません。（→『取扱説明書』）

4　BIOS のパスワード機能を使う

ここでは、本パソコンのデータを守るためのパスワード機能について説明します。

本パソコンは、他人による不正使用を防止するために、パスワードを設定することができます。パスワードを設定すると、正しいパスワードを知っている人以外は本パソコンを使用できなくなります。

パスワードの種類

本パソコンで設定できるパスワードは次の 3 つです。

- 管理者用パスワード
  本パソコンをご購入になった方などが使用するパスワードです。パスワード機能を使用するときは必ず設定してください。
- ユーザー用パスワード
  「管理者」以外で本パソコンをお使いになる方が使用するパスワードです。「管理者用パスワード」を設定した場合のみ設定できます。
- ハードディスク用パスワード
  本パソコンのハードディスクが盗難にあった場合などに、他のパソコンでは使用できないようにするためのパスワードです。「管理者用パスワード」を設定した場合のみ設定できます。

パスワードを設定する

パスワードの設定は、BIOS セットアップで行います。パスワードの設定方法は、次のとおりです。

1　**BIOS セットアップを起動します。**

「BIOS」－「BIOS セットアップを起動する」（→ P.83）

2　**セキュリティメニュー（→ P.91）で設定したいパスワードを選択して【Enter】キーを押します。**

・管理者用パスワード設定
・ユーザー用パスワード設定
・プライマリマスター用パスワード設定

パスワード入力用のウィンドウが表示されます。

3　**8 桁までのパスワードを入力します。**

入力できる文字種はアルファベットと数字です。
入力した文字は表示されず、代わりに「■」が表示されます。
また、ユーザー用のパスワードの最低文字数は、「ユーザー用パスワード設定」（→ P.91）で設定することができます。

4 パスワードを入力したら【Enter】キーを押します。

「新しいパスワードを確認して下さい。」にカーソルが移り、パスワードの再入力を求められます。

重 要

- 管理者用パスワードを忘れるとパスワード機能を解除できなくなり、修理が必要になります。設定したパスワードを忘れないように何かに書き留め、安全な場所に保管しておくことをお勧めします。なお、管理者用パスワードを忘れてしまった場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」までご連絡ください。

5 手順 3 で入力したパスワードを再度入力して【Enter】キーを押します。

「セットアップ通知」と書かれたウィンドウが表示されます。

6 【Enter】キーを押して、設定を終了します。

再入力したパスワードが間違っていた場合は、「セットアップ警告」と書かれたウィンドウが表示されます。【Enter】キーを押して、手順 3 からやり直してください。
パスワードの設定を中止するときは、【Esc】キーを押してください。

■ パスワード設定後のパソコンの起動

パスワードを設定すると、設定状態によって次の場合にパスワードの入力が必要になります。

- BIOS セットアップを起動するとき
- パソコンを起動するとき、休止状態からレジュームするとき
- スタンバイからレジュームするとき

■ BIOS セットアップやパソコンの起動時、休止状態からのレジューム時のパスワード入力

パスワードの入力を求めるウィンドウが表示されたら、パスワードを入力し、【Enter】キーを押してください。

POINT

- 誤ったパスワードを 3 回入力すると、「システムは使用できません」と表示されて、警告音が鳴ります。この場合は、キーボードやマウスが一切反応しなくなるので、本パソコンの電源をいったん切ってから再び電源を入れ、正しいパスワードを入力してください。

■ レジューム時のパスワード入力

パスワードを入力する画面は表示されず、状態表示 LCD に Caps Lock 表示と Scroll Lock 表示が交互に点滅します。この状態では、フラットポイント（マウス）とパスワードを入力する以外のキーボード操作ができません。これらを使えるようにするには、本パソコンの起動時に入力したパスワードと同じパスワードを入力してください（【Enter】キーは不要です）。
ただし、USB マウスなどの USB 機器は、セキュリティの対象外になります。

POINT

- 正しいパスワードを入力しない限り、キーボードやフラットポイント（マウス）は使用できません。
- Windows XP/2000 の「電源オプションのプロパティ」または Windows Me/ 98 の「電源の管理のプロパティ」で、スタンバイや休止状態からの回復時にパスワードを入力するように設定した場合は、スタンバイから回復するときに引き続き Windows のパスワードの入力も必要です。

重 要

- ハードディスクセキュリティ（→ P.92）でパスワードを設定したハードディスクは、他のパソコンに接続しても使用できません。他のパソコンに接続して使用する場合は、本パソコンで設定したハードディスクセキュリティのパスワードの設定が必要となります。パスワードを忘れるとそのハードディスクは使用できなくなるので、ご注意ください。

パスワードを忘れてしまったら

管理者用パスワードを忘れるとパスワード機能を解除できなくなり、修理が必要になります。設定したパスワードを忘れないように何かに書き留め、安全な場所に保管しておくことをお勧めします。なお、管理者用パスワードを忘れてしまった場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」までご連絡ください。

パスワードを変更／削除する

■ パスワードを変更する

設定したパスワードを変更するときは、次の操作を行ってください。

1. 「パスワードを設定する」の手順 1 ～ 2（→ P.95）を行います。
2. 設定してあるパスワードを入力し、【Enter】キーを押します。
   「新しいパスワードを入力して下さい。」にカーソルが移ります。
3. 8 桁までの新しく設定したいパスワードを入力し、【Enter】キーを押します。
   「新しいパスワードを確認して下さい。」にカーソルが移り、パスワードの再入力を求められます。
4. 手順 3 で入力したパスワードを再度入力して【Enter】キーを押します。
   「変更が保存されました。」というウィンドウが表示されます。
5. 【Enter】キーを押して、設定を終了します。
   再入力したパスワードが間違っていた場合は、「セットアップ警告」と書かれたウィンドウが表示されます。【Enter】キーを押して、手順 3 からやり直してください。
   パスワードの設定を中止するときは、【Esc】キーを押してください。

POINT

- 誤ったパスワードを 3 回入力すると、「システムは使用できません」と表示されて、警告音が鳴ります。この場合は、キーボードやマウスが一切反応しなくなるので、本パソコンの電源をいったん切ってから再び電源を入れ、正しいパスワードを入力してください。

■ パスワードを削除する

設定したパスワードを削除するときは、「パスワードを変更する」の手順 3 ～ 4 で何も入力せずに、【Enter】キーを押してください。

POINT

- ユーザーがユーザー用パスワードを削除できるのは、ユーザー用パスワード文字数設定が 0 のときだけです。0 以外のとき、パスワード文字数不足のメッセージが表示されます。

5 BIOS が表示するメッセージ一覧

メッセージが表示されたときは

エラーメッセージが表示された場合は、次の手順に従って処置をしてください。

1 BIOS セットアップを再実行します。

BIOS セットアップに関するエラーメッセージが表示された場合は、BIOS セットアップの、各項目を正しい値に設定してください。
それでもメッセージが表示される場合には、BIOS セットアップの設定値をご購入時の設定に戻して起動し直してください（→『取扱説明書』）。

2 周辺機器を取り外します。

周辺機器を取り付けている場合には、すべての周辺機器を取り外し、パソコン本体をご購入時の状態にして動作を確認してください。
それでも同じメッセージが表示される場合には、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。

3 取り外した周辺機器を、1 つずつ取り付けます。

取り外した周辺機器を 1 つずつ取り付けて起動し直し、動作を確認してください。
また、割り込み番号（IRQ）を使用する周辺機器を取り付けたときは、割り込み番号が正しく割り当てられるように、設定を確認してください。このとき、各周辺機器のマニュアルや、ユーティリティソフトがある場合にはそれらのマニュアルも、あわせてご覧ください。

上記の処理を実行しても、まだ同じメッセージが表示される場合は、本パソコンが故障している可能性があります。「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。

メッセージ一覧

本パソコンは、自動的に故障を検出します。故障の検出は、通常 POST（→ P.82）時に行われます。本パソコンが表示するメッセージの一覧は、次のとおりです。

POINT

- メッセージ中の「n」「x」「z」には数字が表示されます。

■ 正常時のメッセージ

- **＜ESC＞キー:自己診断画面/＜F12＞キー:起動メニュー/＜F2＞キー:BIOSセットアップ**
  起動時の「FUJITSU」のロゴマークが表示されているとき、画面の下に表示されます。このメッセージが表示されている間に【Esc】キーを押すと起動時の自己診断画面が表示され、【F2】キーを押すと BIOS セットアップが起動します。また、【F12】キーを押すと「起動メニュー」画面（→ P.83）が表示されます。
- **＜ F12 ＞キー：起動メニュー / ＜ F2 ＞キー：BIOS セットアップ**
  起動時の自己診断画面の下に表示されます。このメッセージが表示されている間に【F12】キーを押すと「起動メニュー」画面（→ P.83）が表示され、【F2】キーを押すと BIOS セットアップが起動します。
- **お待ちください ...**
  BIOS セットアップの起動中に表示されます。
- **nnnnM システムメモリテスト完了。**
  システムメモリのテストが、正常に完了したことを表示しています。
- **nnnK メモリキャッシュテスト完了。**
  キャッシュメモリのテストが、正常に完了したことを示しています。
- **マウスが初期化されました。**
  マウス機能が初期化され、ポインティングデバイスが使えるようになったことを示しています。

POINT

- 正常時のメッセージを表示させる場合は、「FUJITSU」のロゴマークが表示されているときに、【Esc】キーを押します。また、常に表示させる場合は、「起動」メニューの「起動時の自己診断画面」（→ P.93）の項目を「表示する」に設定してください。

■ エラーメッセージ

- **システムメモリエラー。オフセットアドレス : xxxx**
  誤りビット : zzzz zzzz
  システムメモリのテスト中に、アドレス xxxx でエラーが発見されたことを示しています。
  メモリを増設しているときは、メモリを取り外して、もう一度電源を入れ直してください。
  メモリを取り外しても本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。
- **拡張メモリエラー。オフセットアドレス : xxxx**
  誤りビット : zzzz zzzz
  拡張メモリのテスト中に、アドレス xxxx でエラーが発見されたことを示しています。
  メモリを増設しているときは、メモリが正しく取り付けられているか、または弊社純正品かを確認してください。
  それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。
- **メモリキャッシュのエラーです。-- キャッシュは使用できません。**
  キャッシュメモリのテスト中に、エラーが発見されたことを示しています。
  電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。
- **キーボードコントローラのエラーです。**
  キーボードコントローラのテストで、エラーが発生したことを示しています。
  電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。
- **キーボードエラーです。**
  キーボードテストで、エラーが発生したことを示しています。
  テンキーボードや外付けキーボードを接続しているときは、正しく接続されているかを確認し、もう一度電源を入れ直してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。
- **フロッピーディスク A のエラーです。**
  フロッピーディスクドライブのテストで、エラーが発生したことを示しています。
  もう一度電源を入れ直してください。電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。
- **ディスクエラーです。: ハードディスク n**
  ハードディスクドライブの設定に誤りがあることを示しています。
  BIOS セットアップを起動し、「メイン」メニューの「プライマリマスター」の各項目が正しく設定されているか、確認してください。電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。
- **システムタイマーのエラーです。**
  システムタイマーのテストで、エラーが発生したことを示しています。
  電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。
- **リアルタイムクロックのエラーです。**
  リアルタイムクロックのテストで、エラーが発生したことを示しています。
  電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。

- **システム CMOS のチェックサムが正しくありません。- 標準設定値が設定されました。**
  CMOS RAM のテストでエラーが発見されたため、いったん標準設定値が設定されたことを示しています。
  【F2】キーを押して BIOS セットアップを起動し、標準設定値を読み込んだあと、設定を保存して起動し直してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。
- **前回の起動が正常に完了しませんでした。- 標準設定値が設定されました。**
  前回の起動時に正しく起動されなかったため、一部の設定項目が標準設定値で設定されたことを示しています。
  起動途中に電源を切ってしまったり、または BIOS セットアップで誤った値を設定して起動できなかったとき、3 回以上同じ操作で起動し直したときに表示されます。そのまま起動する場合は【F1】キーを押してください。BIOS セットアップを起動して設定を確認する場合は【F2】キーを押してください。
- **＜ F1 ＞キー：継続 / ＜ F2 ＞キー：BIOS セットアップ**
  起動時の自己診断テストでエラーが発生したとき、OS を起動する前に本メッセージが表示されます。【F1】キーを押すと発生しているエラーを無視して OS の起動を開始し、【F2】キーを押すと BIOS セットアップを起動して設定を変更することができます。
- **日付と時刻の設定を確認してください。**
  日付と時刻の設定値が正しくありません。
  設定値を確認し、正しい値を設定し直してください。
- **パスワードロックされています。：ハードディスク n**
  取り付けたハードディスクドライブが、パスワードロック機能で保護されていることを示しています。そのハードディスクドライブが取り付けられていたパソコンで設定したハードディスクセキュリティのパスワードを、本パソコンにも設定してください。パスワードがわからない場合は、そのハードディスクドライブは使用できません。
- **NVRAM データが正しくありません。**
  NVRAM データのテストでエラーが発見されたことを示しています。
  「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。
- **セキュリティボタン異常**
  電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。
- **Invalid system disk**
  Replace the disk, and then press any key
  フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。
  フロッピーディスクを取り出して、【Space】キーなどを押してください。
- **Non-System disk or disk error**
  Replace and press any key when ready
  フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。
  フロッピーディスクを取り出して、【Space】キーなどを押してください。
- **Operating system not found**
  OS が見つからなかったことを示しています。
  BIOS セットアップの「起動」メニューの設定が正しいか、指定したドライブに OS が正しくインストールされているかを確認してください。

- **PXE-E61:Media test failure, Check cable**

  Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。LAN ケーブルが正しく接続されていません。LAN ケーブルを正しく接続してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元に連絡してください。

- **PXE-E53:No boot filename received**

  Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバーから、起動時に必要な IP アドレスまたは boot filename を取得できませんでした。ブートサーバーを正しく設定してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元に連絡してください。

- **PXE-E78:Could not locate boot server**

  Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバーがないか、正しく動作していません。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOS セットアップで「ネットワークサーバからの起動」を「使用しない」に設定してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元に連絡してください。

- **PXE-E89:Could not download boot image**

  Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバー上のブートイメージファイルが取得できませんでした。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOS セットアップで「ネットワークサーバからの起動」を「使用しない」に設定してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元に連絡してください。

- **PXE-E32:TFTP open timeout**

  Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ネットワークブートに失敗しました。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOS セットアップで「ネットワークサーバからの起動」を「使用しない」に設定してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元に連絡してください。

POINT

- 本書に記述されていないシステムエラーメッセージが表示された場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。

Memo

第 5 章

技術情報

本パソコンの仕様などを記載しています。

1 仕様一覧

本体仕様

製品名称		FMV-7000NA2
CPU※1		モバイルインテル® Pentium® 4 プロセッサ 1.60※2GHz-M
キャッシュメモリ		20KB ＋ 512KB（CPU 内蔵）
チップセット		インテル® 845MP チップセット
システム・バス		400MHz
メインメモリ		PC2100 DDRSDRAM DIMM Windows Me/98 モデル：標準 128MB※3／最大 512MB Windows XP/2000/NT モデル：標準 128MB※4／最大 1GB※5
拡張メモリスロット		× 2（空きスロット× 1）※6
表示機能	画面制御	ATI MOBILITY™ RADEON™（AGP 接続）
	VRAM	16MB（グラフィックチップに内蔵、DDR SDRAM）
	液晶ディスプレイ	14.1 型 TFT カラー 1024 × 768 ドット※7
	解像度／発色数	液晶ディスプレイ表示：1024 × 768 ドット／ 1677 万色※8 外部ディスプレイ表示：最大 1600 × 1200 ドット／ 1677 万色 液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示： 1024 × 768 ドット／ 1677 万色※8
フロッピーディスクドライブ※9		3.5 インチ（3 モード対応） （お使いのモデルによっては搭載されていません）
ハードディスクドライブ※10		2.5 インチ 20GB※11（Ultra ATA/100）
CD/DVD ドライブ		CD-ROM ドライブ（CD-ROM 読出：最大 24 倍速）※12 （お使いのモデルによっては搭載されていません）
サウンド機能		AC’97 準拠 AC-Link 接続サウンド （16bit ステレオ PCM 同時録音再生機能、MIDI 再生機能※13）／ ステレオスピーカー内蔵／モノラルマイク内蔵
キーボード		OADG 配列準拠 93 キー（Windows キー／アプリケーションキー付）※14
ポインティングデバイス		フラットポイント、スクロールボタン※15
通信機能	モデム	カスタムメイドにより追加できます※16
	LAN	10BASE-T/100BASE-TX 準拠※17※18
	ワイヤレス LAN	カスタムメイドにより追加できます※19
セキュリティ機能	セキュリティボタン	カスタムメイドにより追加できます※20
	指紋センサー	カスタムメイドにより追加できます※21
	スマートカード	カスタムメイドにより追加できます※22
	盗難防止用ロック	あり

製品名称		FMV-7000NA2
インターフェース	PCカード	PC Card Standard 準拠 Type I / II × 2 スロットまたは Type III × 1 スロット（CardBus 対応）
	外部ディスプレイ	アナログ RGB Mini D-SUB 15 ピン
	シリアル	非同期 RS-232C 準拠 D-SUB 9 ピン（16550A 互換）
	パラレル	双方向セントロニクス（IEEE1284 準拠／ ECP 対応）D-SUB 25 ピン
	キーボード／マウス	PS/2 準拠 Mini-Din 6 ピン× 1
	USB※23	シリーズ A × 2（USB 1.1 準拠）
	モデムコネクタ※24	RJ-11
	LAN コネクタ	RJ-45
	赤外線※25	IrDA 1.1 準拠（最大 4Mbps）
	サウンド	ヘッドホン出力：ϕ3.5mm ステレオ・ミニジャック、 ライン入力：ϕ3.5mm ステレオ・ミニジャック、 マイク入力：ϕ3.5mm モノラル・ミニジャック
	状態表示	モノクロ液晶、アイコン表示
	マルチベイ	× 1（専用コネクタ）
電源供給方式	AC アダプタ	入力 AC100V ～ 240V、出力 DC19V（4.22A）
	バッテリ※26	標準バッテリ（リチウムイオン、14.4V/1800mAh）／ 大容量バッテリ（リチウムイオン、14.4V/3800mAh）／ 増設バッテリ（リチウムイオン（別売）、10.8V/3400mAh）
バッテリ稼働時間 (JEITA 測定法 1.0)※27		約 1.2 時間（標準バッテリ）／約 2.4 時間（大容量バッテリ） 約 2.8 時間（標準バッテリ＋増設バッテリ）／ 約 4.0 時間（大容量バッテリ＋増設バッテリ）
バッテリ充電時間※28		約 2.5 時間（標準バッテリ）／約 4 時間（大容量バッテリ） 約 6 時間（標準バッテリ＋増設バッテリ）／ 約 7.5 時間（大容量バッテリ＋増設バッテリ）
消費電力※29		約 80W 以下
省エネ法に基づく エネルギー消費効率※30		S 区分※31 Windows NT モデル：0.0055 Windows NT モデル以外：0.00042
外形寸法		W318 × D269.5 × H45.1 ～ 47.3mm（突起部含まず）※33
質量※32		約 3.4kg
プレインストール OS		Windows XP Professional モデル：Windows XP Professional Windows 2000 モデル：Windows 2000 Professional（Service Pack 2） Windows NT モデル：Windows NT Workstation 4.0（Service Pack 6a） Windows Me モデル：Windows Millennium Edition Windows 98 モデル：Windows 98 Second Edition

本パソコンの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。
「※印について」（→ P.108）

※印について

※ 1　：アプリケーションによっては CPU 名表記が異なることがあります。

※ 2　：ご購入時の選択によっては、1.7GHz-M または 1.8GHz-M の場合もあります。

※ 3　：ご購入時の選択によっては、256MB、384MBまたは512MBの場合もあります。

※ 4　：ご購入時の選択によっては、256MB、384MB、512MBまたは1GB の場合もあります。

※ 5　：1GB のメモリ容量にするには、搭載済のメモリをすべて取り外し、拡張 RAM モジュールー 512MB を 2 枚取り付ける必要があります。

※ 6　：ご購入時の選択によっては、空きスロットが無い場合もあります。

※ 7　：ご購入時の選択によっては、15 型 TFT カラー 1024 × 768 ドットの場合もあります。

※ 8　：液晶ディスプレイの場合、ディザリング機能によります。

※ 9　：・フロッピーディスクは、フォーマットした環境（メーカー、機種、ソフトウェア）によっては、データを読み書きできない場合があります。対応メディアは、2HD（1.44MB, 1.2MB）と 2DD（720KB）です。

・Windows XP では、1.44MB 以外のフォーマットはできません。

※ 10：容量は、1MB=1000^2byte、1GB=1000^3byte 換算値です。

※ 11：ご購入時の選択によっては、30GB、40GB、または 60GB の場合もあります。

※ 12：ご購入時の選択によって、以下のいずれかのドライブが搭載されている場合もあります。なお、各数値は仕様上の最大値であり、使用メディアや動作環境によって異なる場合があります。

CD-R/RW ドライブ	CD-ROM 読出：最大 24 倍速、CD-R 書込：最大 8 倍速、 CD-RW 書込／書換：最大 8 倍速
DVD-ROM&CD-R/RW ドライブ	CD-ROM 読出：最大 24 倍速、CD-R 書込：最大 16 倍速、 CD-RW 書込／書換：最大 10 倍速、DVD-ROM 読出：最大 8 倍速

※ 13：OS 標準機能でサポートしています（Windows NT を除きます）。

※ 14：ご購入時の選択によっては、NICOLA 配列準拠親指シフトキーボード（95 キー、Windows キー／アプリケーションキー付）の場合もあります。

※ 15：ご購入時の選択によっては、外付 PS/2 マウス添付（フラットポイント無し）または赤外線ワイヤレスマウス添付（フラットポイント有り。パソコン本体に受光部が追加されます）の場合もあります。
なお、赤外線ワイヤレスマウスは、15 型 TFT カラー液晶ディスプレイの場合のみ選択できます。

※ 16：ご購入時の選択によって追加されるモデム機能は、データ：最大 56kbps（V.90 準拠）／ FAX：14.4kbps の機能をもっています。なお、V.90 は ITU（国際電気通信連合）が定めた通信規格です。V.90 での接続においては接続先のプロバイダなどが同規格に対応していることが必要です。56000bps は V.90 の理論上の最高速度であり、実際の通信速度は回線状況により変化します。V.90 による 33600bps を超える通信速度は受信時のみで、送信時は 33600bps が最高速度となります。日本国内の一般公衆回線あるいは構内交換機経由での通信においては、V.90 での通信が行えない場合があります。

※ 17：屋内のネットワーク専用です。

※ 18：ご購入時の選択によっては、セキュリティ対応 LAN 機能（10BASE-T/100BASE-TX 準拠）が搭載されていることがあります。セキュリティ対応 LAN は、IPSec 処理のためにかかる CPU の負担を軽減することのできるものです。なお、IPSec とは、インターネットに関する各種のプロトコルなどの標準化組織である IETF（Internet Engineer Task Force）が標準化を進めている、暗号化通信方式の標準規格であり、暗号化通信を実現する複数のプロトコルの総称です。

※ 19：ご購入時の選択によって追加されるワイヤレス LAN は、IEEE802.11b 準拠（Wi-Fi 準拠）です。
Wi-Fi 準拠とは、ワイヤレス LAN の相互接続性を保証する団体「WECA」の相互接続性テストに合格していることを示しています。なお、電波の発信が禁じられている場所（病院など）では電波を停止してください。

※ 20：ご購入時の選択によって追加されるセキュリティボタンは、数字ボタン× 4、Enter ボタンの追加ハードウェアと専用アプリケーションから構成されています。なお、OS の動作中は専用ユーティリティにより、アプリケーション起動用のワンタッチボタンとして機能させることができます（P.15）。

※ 21：ご購入時の選択によって、パームレスト部分に読み取りセンサーが追加されます（P.16）。

※ 22：ご購入時の選択によって、内蔵されたチップにセキュリティ情報を格納できるスマートカードと専用の PC カード型ホルダーが添付されます。

※ 23：すべての USB 対応周辺機器について動作保証するものではありません。また、Windows NT ではサポートしていません。

※ 24：モデム機能が搭載されている場合のみ。

※ 25：Windows NT ではサポートしていません。

※ 26：バッテリは消耗品です。ご購入時の選択により、標準バッテリか大容量バッテリのいずれかが搭載されています。

※ 27： 社団法人電子情報技術産業協会の『JEITA バッテリ動作時間測定法（Ver1.0)』（http://it.jeita.or.jp/mobile/index.html）。なお、本体のみ、省電力制御あり、満充電の場合。ただし、実際の稼働時間は使用条件により異なります。

※ 28： 主電源スイッチ OFF またはスタンバイ時。なお、装置動作中の充電時間は、装置の動作状況により長くなることがあります。

※ 29： AC アダプタ運用時。その他の消費電力については以下の通りです。

- 電源 OFF 時の消費電力：約 1W 以下（満充電時）
  なお、電源 OFF 時のエネルギー消費を回避するには、AC アダプタの電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 動作時の最大電力／最小電力：約 80W ／約 23W

※ 30： スタンバイ時（充電無。AC アダプタを含む）。なお、エネルギー消費効率とは省エネ法で定める測定方法により測定した消費電力を省エネ法で定める複合理論性能で除したものです。

※ 31： ご購入時の選択によって CPU を変更した場合は、以下の通りです。

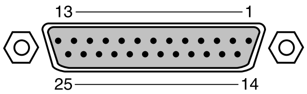
CPU	Windows NT モデル	Windows NT モデル以外
1.7GHz-M	0.0051	0.00040
1.8GHz-M	0.0049	0.00038

※ 32： フロッピーディスクドライブおよび CD-ROM ドライブ搭載モデルの場合。CD-ROM ドライブ非搭載時には、約 3.2kg になります。

※ 33： 15 型 TFT カラー液晶ディスプレイを選択した場合は、W325.3 × D271.5 × H45.1 ～ 47.3mm（突起部含まず）になります。

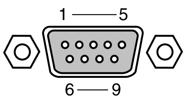
2 コネクタのピン配列と信号名

■ パラレルコネクタ（D-SUB25 ピン、メス）



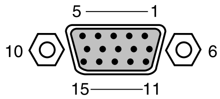
ピン番号	信号名	方向	説明
1	*STROBE	入出力	ストローブ
2	DATA 0	入出力	データ 0
3	DATA 1	入出力	データ 1
4	DATA 2	入出力	データ 2
5	DATA 3	入出力	データ 3
6	DATA 4	入出力	データ 4
7	DATA 5	入出力	データ 5
8	DATA 6	入出力	データ 6
9	DATA 7	入出力	データ 7
10	ACK	入力	アクノリッジ
11	*BUSY	入力	ビジー
12	PE	入力	用紙切れ
13	SELECT	入力	セレクト
14	*AUTOFD	出力	自動送り
15	*ERROR	入力	エラー
16	*INIT	出力	初期化
17	*SLCTIN	出力	選択
18 ～ 25	GND	―	グランド

■ シリアルコネクタ（D-SUB9 ピン、オス）



ピン番号	信号名	方向	説明
1	CD	入力	キャリア検出
2	RD	入力	受信データ
3	TD	出力	送信データ
4	DTR	出力	データ端末レディ
5	GND	―	グランド
6	DSR	入力	データセットレディ
7	RTS	出力	送信要求
8	CTS	入力	送信可
9	RI	入力	リングインジケート

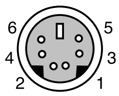
■ 外部ディスプレイコネクタ（ミニ D-SUB15 ピン、メス）



ピン番号	信号名	方向	説明
1	RED	出力	赤出力
2	GREEN	出力	緑出力
3	BLUE	出力	青出力
4	NC	—	未接続
5 ～ 8	GND	—	グランド
9	+5V	—	電源※
10	GND	—	グランド
11	NC	—	未接続
12	SDA	入出力	シリアルデータライン
13	HSYNC	出力	水平同期信号
14	VSYNC	出力	垂直同期信号
15	SCL	入出力	シリアルクロックライン

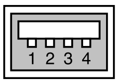
※：MAX 300mA

■ 拡張キーボード／マウスコネクタ（PS/2 タイプミニ DIN6 ピン）



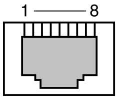
ピン番号	信号名	方向	説明
1	KDATA	入出力	キーボードデータ
2	MDATA	入出力	マウスデータ
3	GND	—	グランド
4	+5V	—	電源
5	KCLK	入出力	キーボードクロック
6	MCLK	入出力	マウスクロック

■ USB コネクタ



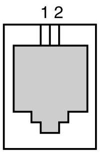
ピン番号	信号名	方向	説明
1	VCC	—	ケーブル・電源
2	－ DATA	入出力	－データ信号
3	＋ DATA	入出力	＋データ信号
4	GND	—	ケーブル・グランド

■ LAN コネクタ（100BASE-TX/10BASE-T）



ピン番号	信号名	方向	説明
1	TD ＋	出力	送信データ＋
2	TD －	出力	送信データ－
3	RD ＋	入力	受信データ＋
4	NC	—	未接続
5	NC	—	未接続
6	RD －	入力	受信データ－
7	NC	—	未接続
8	NC	—	未接続

■ モデムコネクタ（モデム）



ピン番号	信号名	方向	説明
1	LINE1	入出力	公衆回線に接続
2	LINE2	入出力	公衆回線に接続

※：モデム搭載モデルのみ搭載されます。

索引

た行

な行

は行

ま行

や行

ら行

わ行

FMV-7000NA2
FMV-LIFEBOOK

ハードウェアガイド
B5FH-5351-01-01

発 行 日　2002 年 5 月
発行責任　富士通株式会社